2-108-844-**03**(1)

DVDホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DAV-SR4W

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4 〜 6 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
3 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体底部の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体底部の通気孔を絶対にふさがないでください。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本機を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスクについて

市販のCD/DVDレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

輸送時のご注意

セットを輸送する場合は、メカニズムを保護するために次のとおり操作してください。

1. 本体からディスクを抜く。
2. ファンクションボタンを押して表示窓に「DVD」を表示させる。
3. ⏮、⏭、⏏ボタンを同時に押す。

表示窓に「MECHA LOCK」と表示されます。
操作をキャンセルする場合は、I/⏻ボタンを押してください。

上記の操作のあと電源コードを抜き、セットを輸送してください。

⚠警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

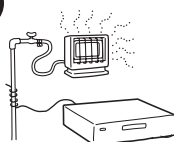
雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

指のケガに注意

大音量で長時間つづけて聞かない

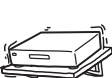
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

ディスクスロットの前に物を置かない

ディスクを取り出す際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。

禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

指示

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

接触禁止

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

指示

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

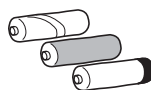
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

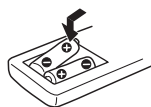
➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

目次

接続と設定をする

再生する

音声を楽しむ

映像を楽しむ

その他の機能を使う

次のページへつづく

設定と調整をする

その他

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD	DVDビデオ/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）/DVD+R/DVD+RWで使える機能
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能
CD	CDで使える機能
SA-CD CD	スーパーオーディオCD/CDで使える機能
MP3	MP3*音声で使える機能
JPEG	JPEG画像で使える機能情報

* MPEG 1 Audio Layer 3: MPEG によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
DVD-RW Ver.1.1	DVD RW
DVD+RW	RW DVD+ReWritable
DVD-R	DVD R R4.7
DVD+R	RW DVD+R
スーパーオーディオCD	SUPER AUDIO CD
ビデオCD	
音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT
CD-R/CD-RW（音楽データ）（MP3ファイル）（JPEGファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc Recordable / COMPACT disc ReWritable

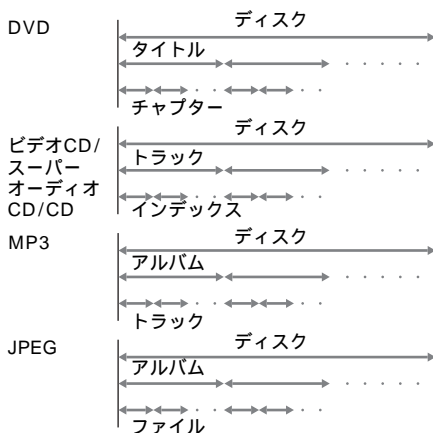
“ DVD VIDEO ” , “ DVD-RW ” , “ DVD+RW ” , “ DVD+R ” , “ DVD-R ” ロゴは商標です。

ディスクに関する用語の説明

- **タイトル**
  DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたります。
- **チャプター**
  DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。ディスクに

次のページへつづく

よってはチャプターが記録されていないものもあります。

- **アルバム**
  MP3音声やJPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。
- **トラック**
  ビデオCDやスーパーオーディオCD、CD、MP3に記録されている映像や曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。
- **インデックス（スーパーオーディオCD/CD）/ビデオインデックス（ビデオCD）**
  ビデオCDおよびスーパーオーディオCD、CDで、再生したい部分を見つけやすいように1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。
- **シーン**
  PBC対応（44ページ）のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンと言います。
- **ファイル**
  JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback Controlの略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、44ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

マルチセッションCDについて

- 本機はマルチセッションCDに対応しています（最初のセッションにMP3音声またはJPEG画像が記録されているとき）。その場合、あとのセッションに記録されているMP3音声またはJPEG画像を再生することができます。
- 音楽CDやビデオCDに記録された音声や画像は、最初のセッションに記録されたものを再生することができます。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDのパッケージには地域番号（112ページ）が表示されています。
地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。

再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM（「.MP3」、「.JPG」、「.JPEG」の拡張子以外）
- CD-R/CD-RW
  ただし、以下のフォーマットで記録したCD-R/CD-RWは再生できます。
  ー音楽用フォーマット
  ービデオCD フォーマット
  ーISO9660*1 レベル1/ レベル2/Joliet/マルチセッション*2準拠のMP3、JPEGファイル
- CD-EXTRAのデータ部分
- スーパーオーディオCDのEXTRAデータ部分
- DVD-ROM
- DVDオーディオ
- DVD-RAM
- DVD-RW (VRモード)
- プログレッシブJPEGファイル

*1 ISO9660フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定したCD-ROMの論理フォーマット。
Level1からLevel3まで、3段階の交換レベルを設けています。Level1は、最も制限の厳しいレベルで、ファイル名は8.3形式（ファイル名は最大8文字、拡張子は最大3文字まで）という制約があります。Level2はファイル名の長さの制約が31文字にまで緩和され、Level3ではマルチエクステントが許容されています。

*2 マルチセッション
CDに複数のセッションで記録すること、または複数のセッションで記録されたCDのタイトルの状態のこと。
従来のCDが「リードイン～データ～リードアウト」で構成されるセッションを1つしか持たないのみ対し、マルチセッションCDは、複数のセッションを持っています。
CD-Extra：第1セッションに音声データを、第2セッションにコンピュータ用のデータを収録します。

次のようなディスクも再生できません。

- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVD（10、112ページ）
- MP3PROで記録されたMP3ファイル
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク
- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使用したディスク

CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW（ビデオモードのみ）/DVD+R/DVD+RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW（ビデオモードのみ）/DVD+R/DVD+RWディスクを再生できます。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をしていないCD-RおよびCD-RWディスクは再生できません。
- 拡張子「.MP3」が付いていないMP3形式のファイルは、再生できないことがあります。
- MP3形式以外のファイルに拡張子「.MP3」が付いていると、そのファイルを再生してしまうため、雑音や故障の原因となります。
- MP3音声がアルバムに記録されていないときはスキップします。
- 拡張子「.JPG」または「.JPEG」が付いていないJPEG形式のファイルは、再生できないことがあります。
- プログレッシブJPEG形式のファイルは再生できません。
- 縦が1ドットのJPEG画像は表示できません。
- 縦または横が4720ドット以上のJPEG画像は表示できません。

次のページへつづく

- アルバムの最大数は99です（MP3、JPEGアルバムに記録されるトラック数の最大数は250です）。
- パケットライト方式で作成されたディスクは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“ AAC ” ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

以下が米国AACパテントナンバーです。

* Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

**Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-ES、Neo:6およびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- ディスクに紙やテープを貼らないでください。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

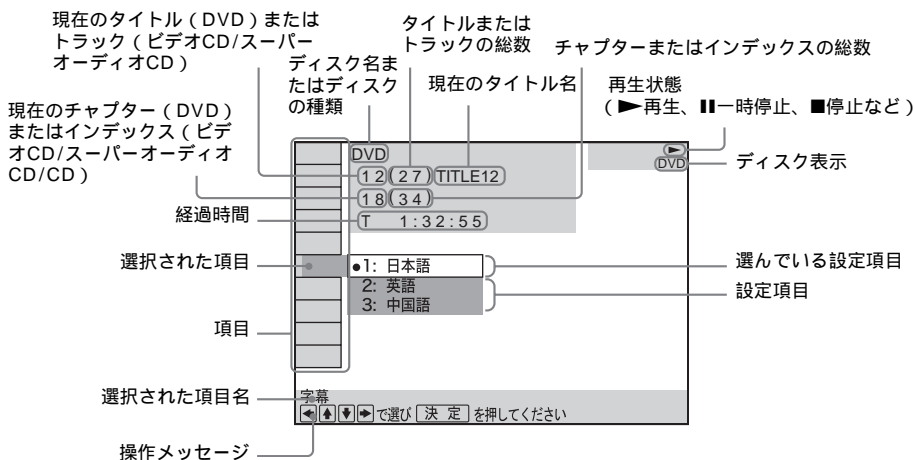
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

本システムでは円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本システムの故障の原因となることがあります。

市販されているシールやリングなどのアクセサリーをディスクに取りつけて使用しないでください。

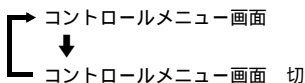
コントロールメニュー画面の見かた

ここでは、コントロールメニュー画面について説明します。DVD画面表示ボタンを押すと表示されます。詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	説明
ディスク	ディスク名またはディスクの種類を表示します。
タイトル（DVDのみ）（56ページ）/シーン（PBC再生時のビデオCDのみ）/トラック（ビデオCDのみ）（56ページ）	再生するタイトル（DVD）、トラック（ビデオCD）を選びます。 シーン（PBC再生時のビデオCD）を表示します。
チャプター（DVDのみ）（57ページ）/インデックス（ビデオCDのみ）（57ページ）	再生するチャプター（DVD）やインデックス（ビデオCD）を選びます。
アルバム（MP3のみ）（45、56ページ）	再生するアルバムを選びます。
トラック（スーパーオーディオCD/CD/MP3のみ）（45、56ページ）	再生するトラックを選びます。
インデックス（スーパーオーディオCD/CDのみ）（57ページ）	再生するインデックス（スーパーオーディオCD）を選びます。
時間（58ページ）	経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します。
音声（DVD/ビデオCD/スーパーオーディオCD/CD/MP3のみ）（63ページ）	音声を切り換えます。
字幕（DVDのみ）（74ページ）	字幕を表示します。 字幕の言語を切り換えます。

アルバム（JPEGのみ）（48、56ページ）	再生するアルバムを選びます。
ファイル（JPEGのみ）（48、56ページ）	再生するファイル（JPEG）を選びます。
日付（JPEGのみ）（62ページ）	日付情報を表示します。
アングル（DVDのみ）（73ページ）	アングルを切り換えます。
プレイモード（ビデオCD/スーパーオーディオCD/CD/MP3/JPEGのみ）（52ページ）	プレイモードを選びます。
リピート（53ページ）	ディスク全体（全タイトル/全トラック）または1つのタイトル/アルバム/チャプター /トラックだけ、またはプログラム設定したトラックを繰り返し再生します。
カスタム視聴制限（75ページ）	ディスクに、本機での再生を禁止する設定をします。

ちょっと一言

- CD-R/CD-RWドライブで記録されたディスクには、傷や汚れ、また記録状態や記録機の特性等が原因で再生できないものがあります。また、全ての記録終了時に終了情報を記録するファイナライズ作業をしていないディスクは再生できません。詳しくは、レコーダーの取扱説明書をお読みください。
- DVD画面表示ボタンを繰り返し押すと、次のように表示が切り換わります。

ディスクによりコントロールメニュー画面に表示される項目は異なります。

- → 「リピート」を選んでいるときに、アイコンが緑に点灯します。
- 複数のアングルがディスクに記録されているときに、アイコンが緑に点灯します。

付属品を確認する

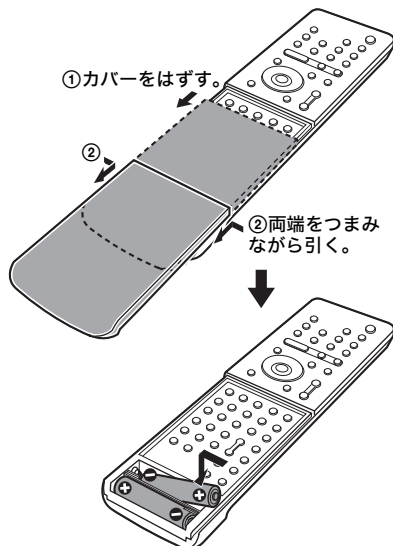
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- スピーカー（5）
- サブウーファー（1）
- 発光ユニット[1)]（1）
- 受光ユニット[1)2)]（1）
- 受光ユニット用スタンド[1)]（1）
- AMループアンテナ（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- スピーカーコード（3.5m×3、10m×1）
- 映像コード（ピンプラグ×1 ←→ ピンプラグ×1）（1）
- リモコン（RM-SP320J）（1）
- 単4形乾電池（R03）（2）
- 取扱説明書 （1）
- スピーカーの接続と配置（1）
- ソニーご相談窓口のご案内 （1）
- 保証書 （1）

付属品がそろっていないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

1) 発光ユニット、受光ユニットのコードは、本機専用になっています。市販の延長コードはご使用にならないでください。
2) サラウンドスピーカー（L）の受光部では発光ユニットからの赤外線をうまく受信できない場合に使用します（発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の間に障害物がある場合など）。詳しくは「付属の受光ユニットを使う」（34ページ）をご覧ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単4形乾電池（R03、付属）2個を入れてください。
本機を操作するときは、本機のリモコン受光部 ◨ にリモコンを向けて操作してください。

ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 ◨ に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

手順1：スピーカーを接続する

付属のスピーカーをつなぎます。本体のスピーカー端子、付属のスピーカーコードのカラーチューブ、スピーカーのカラーラベルはそれぞれ色分けしてあります。同じ色どうしをつないでください。付属のスピーカー以外のスピーカーは、接続しないでください。
最適なサラウンドサウンドを楽しむために、スピーカー設定を正しく行ってください（39ページ）。

ご注意
手順1～3は電源を切った状態で行ってください。

必要な接続コード

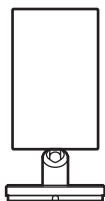
スピーカーコード（付属）

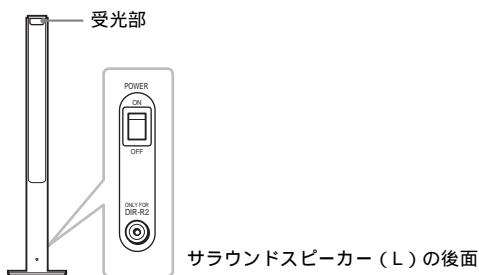
スピーカーコードの先端の（＋）側に付いているカラーチューブは、つなぐスピーカー端子やスピーカーのカラーラベルと同じ色になっています。

ワイヤレスシステムを設置するために必要なもの

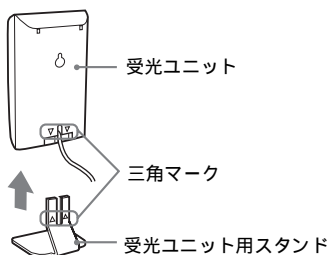
発光ユニット

赤外線でリアチャンネルのサウンドをサラウンドスピーカー（L）に送信します。
発光ユニットは本機に接続します。

次のページへつづく

サラウンドスピーカー（L）

サラウンドスピーカー（L）は、受光ユニットを搭載しています。発光ユニットから送信されたサウンドを受信して、サラウンドスピーカー（R）に送ります。
サラウンドスピーカー（R）を接続します。

受光ユニット（付属）

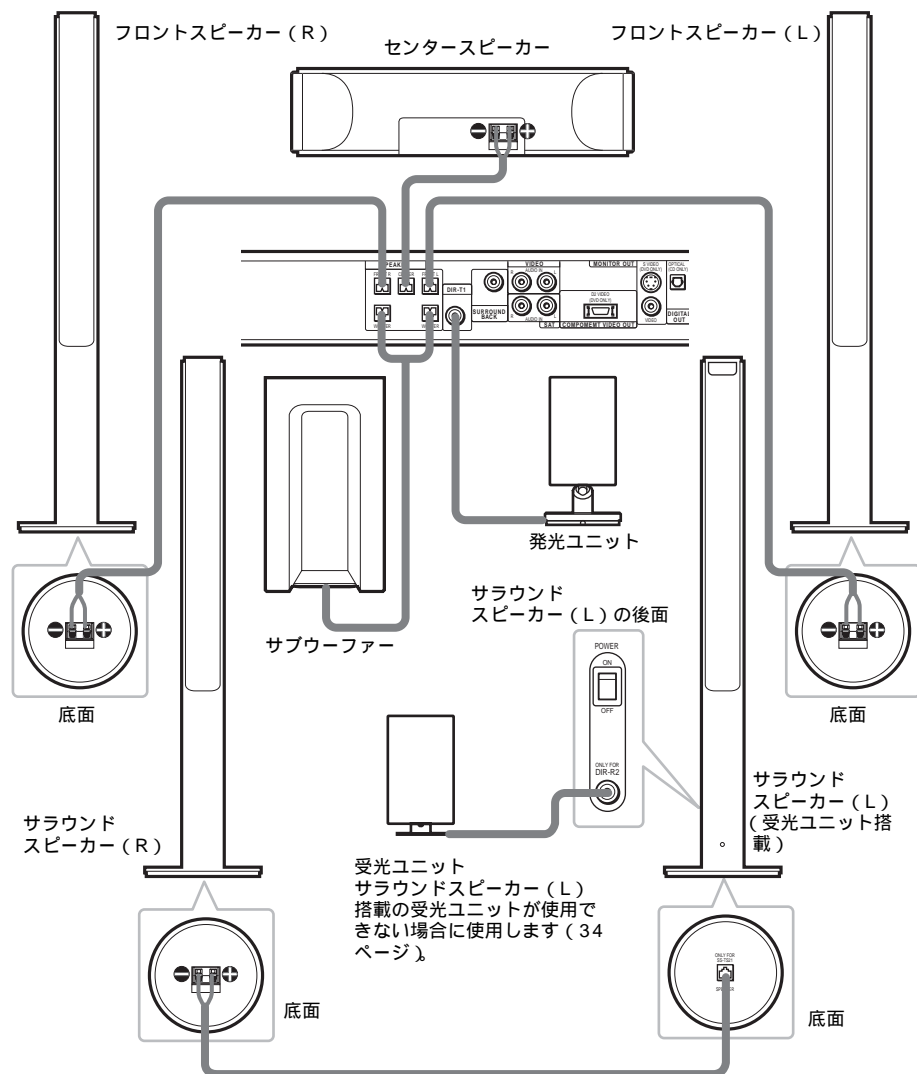
サラウンドスピーカー（L）の受光部では発光ユニットからの赤外線をうまく受信できない場合に使用します（発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の間に障害物がある場合など）。
受光ユニットはサラウンドスピーカー（L）に接続します。
詳しくは「付属の受光ユニットを使う」（34ページ）をご覧ください。

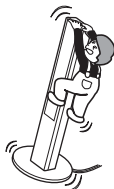
受光ユニット用スタンドを使用する場合は、受光ユニットと受光ユニット用スタンドの三角マークが合うように、スタンドを差し込んでください。

ご注意

受光ユニットをサラウンドスピーカー（L）に接続すると、自動的にサラウンドスピーカー（L）の受光部がオフになり、接続した受光ユニットで受信するようになります。

スピーカーをつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
フロントスピーカー	本体のSPEAKER FRONT L（白）/R（赤）端子
センタースピーカー	本体のSPEAKER CENTER（緑）端子
サブウーファー	本体のSPEAKER WOOFER（紫）端子
サラウンドスピーカー（R）	サラウンドスピーカー（L）のSPEAKER（灰）端子
発光ユニット	本体のDIR-T1（ピンク）端子

次のページへつづく

スピーカー設置上のご注意

- 以下のような場所には置かないでください。
  - ー 傾いた所。
  - ー 極端に温度が高い所または低い所。
  - ー ほこりの多い所。
  - ー 湿気の多い所。
  - ー ぐらついた台の上など。
  - ー 直射日光が当たる所
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に、サブウーファーおよび、フロント/サラウンドスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- スピーカーにもたれたり、ぶらさがらないでください。転倒のおそれがあります。

発光ユニット、サラウンドスピーカー（L）（または受光ユニット）設置上のご注意

- サラウンドスピーカー（L)（または受光ユニット）は、直射日光や照明などの強い光が当たる場所には置かないでください。
- 発光ユニット、受光ユニットのコードは、本機専用になっています。市販の延長コードはご使用にならないでください。

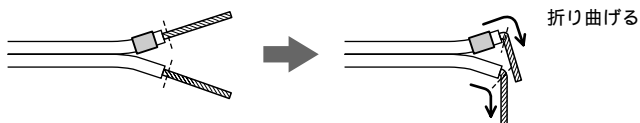
ちょっと一言

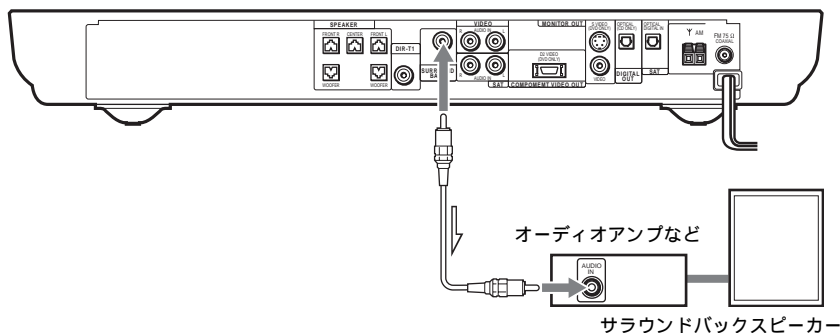
コンセントの位置によって、サラウンドスピーカー（L)の位置を変えることができます（31ページ）。

ご注意

スピーカーコードの被覆部をスピーカー端子に挟み込まないようにつないでください。

ちょっと一言

下図のようにスピーカーコードの先端を被覆がむけている根本の部分で折り曲げてからスピーカー端子につなぐと、被覆部を挟み込みにくくなります。

サラウンドバックスピーカーを接続するには

本機は6.1サラウンドシステムに対応しています。市販のサラウンドバックスピーカーを接続して、サラウンドバックスピーカーの設定（97ページ）をすれば、DTS-ESなどの6.1サラウンドシステム対応のDVDを楽しむことができます。

ちょっと一言

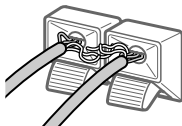
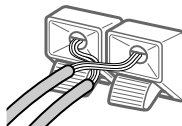
サラウンドバックデコード機能を使うと、2チャンネルや5.1チャンネルのソースも6.1サラウンドシステムで楽しむことができます（70ページ）。

スピーカーのショートを防止する

スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。
ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例

スピーカーコードの先端が他のコードと接触している。

スピーカーコードの先端が端子から大幅にはみ出し、他のコードと接触している。

すべての機器、スピーカーコードの接続が完了したら、電源コードをコンセントへ接続し、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは99ページをご覧ください。

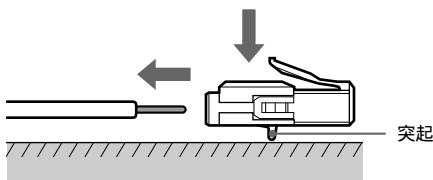
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本体のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

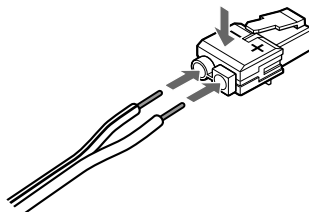
ご注意

- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋どうし、－は－どうしでつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音不足に聞こえます。
- お手持ちのフロントスピーカーの最大入力レベルが低い場合、過大入力にならないように本機の音量を調節してください。
- サブウーファーのコードを間違って接続して、ショートした状態で本機のボリュームを上げると、「PROTECT」が表示されスタンバイモードになります。その場合はコンセントから電源コードを抜いて、もう一度差し込んでから電源を入れ直してください。

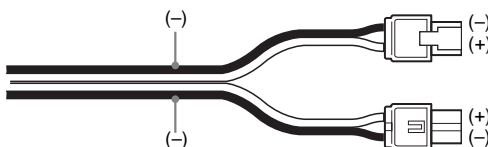
スピーカーコードを取り換える

プラグにつながれているスピーカーコードを取り換えて使用することができます。

プラグをはずす

平らな場所にプラグの突起部分が下になるように置き、上から押しながらスピーカーコードをはずします。

プラグを取り付ける

平らな場所にプラグを置き、上から押しながらスピーカーコードをプラグに差し込みます。
スピーカーコードは線やマークのある方を（－）側に接続してください。

ご注意

- スピーカーコードを取り換えるときは、机などを傷つける恐れがあるため、ご注意ください。
- サブウーファーのコードは、外側の黒い方、または文字が印刷してある方が（－）側です。

- サブウーファーのコードを間違って接続して、ショートした状態で本機のボリュームを上げると、「PROTECT」が表示されスタンバイモードになります。その場合はコンセントから電源コードを抜いて、もう一度差し込んでから電源を入れ直してください。

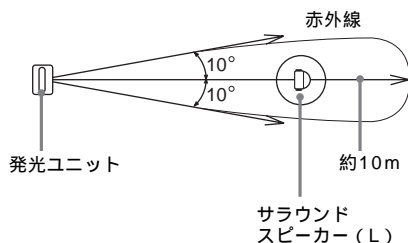
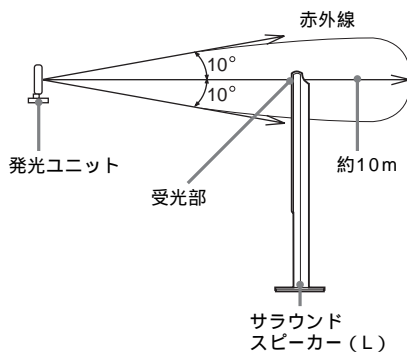
ちょっと一言

- プラグに接続できるスピーカーコードの線経は、#18番線から#22番線までです。
- 市販のスピーカーコードを取り付ける場合は、チューブを10mm切り外し、芯線をよくねじってから接続してください。

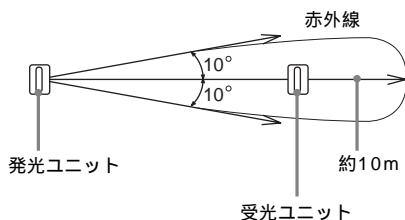
ワイヤレスシステムについて

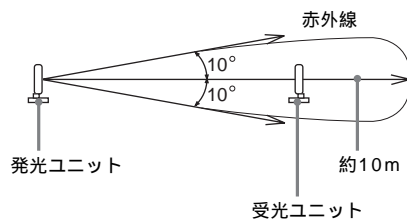
本機のワイヤレスシステムは、デジタル赤外線伝送方式（Digital Infrared Audio Transmission）を採用しております（112ページ）。
赤外線の届く範囲は、おおよそ下図のとおりです。

サラウンドスピーカー（L）搭載の受光ユニットを使用する場合

上から見た図

横から見た図

付属の受光ユニットを使用する場合

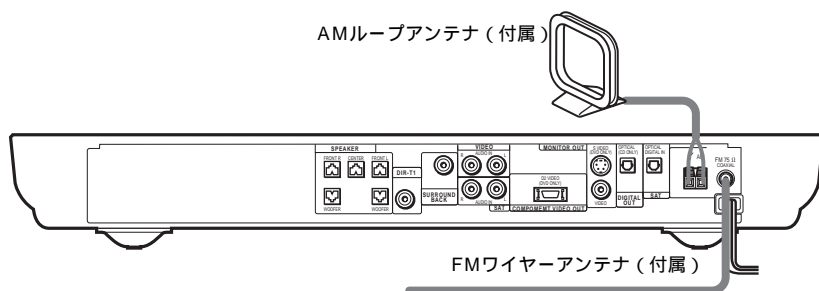
上から見た図

横から見た図

ご注意

- サラウンドスピーカー（L)（または受光ユニット）は、直射日光や照明などの強い光が当たる場所には置かないでください。
- サラウンドスピーカー（L)（または受光ユニット）は、同梱以外のものを使用しないでください。

手順2：アンテナを接続する

ラジオを聞くために、付属のAM/FMアンテナをつなぎます。

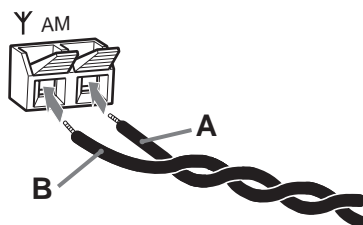
アンテナをつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
AMループアンテナ	AM端子
FMワイヤーアンテナ	FM 75Ω COAXIAL端子

ご注意

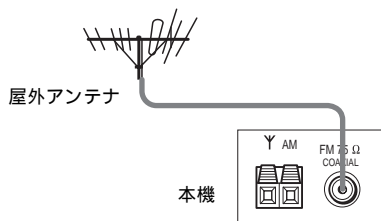
- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に張ってください。

ちょっと一言

- 付属のAMアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にも接続できます。

次のページへつづく

ちょっと一言

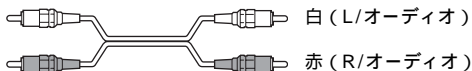
FMの受信状態が良くないときは

次のように、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。

手順3：テレビやビデオを接続する

必要な接続コード

テレビモニター用ビデオ接続コード（付属）

オーディオ接続コード（別売）

白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。

ビデオ機器をつなぐ端子

つなぐもの	つなぐ端子
テレビモニター	MONITOR OUTのVIDEO端子
ビデオデッキ	VIDEOのAUDIO IN L/R端子
2台めのビデオデッキや衛星放送チューナーなど	SATのAUDIO IN L/R端子

MONITOR OUTのVIDEO端子のかわりにMONITOR OUTのS VIDEO端子につなぐときは（ケーブル別売）

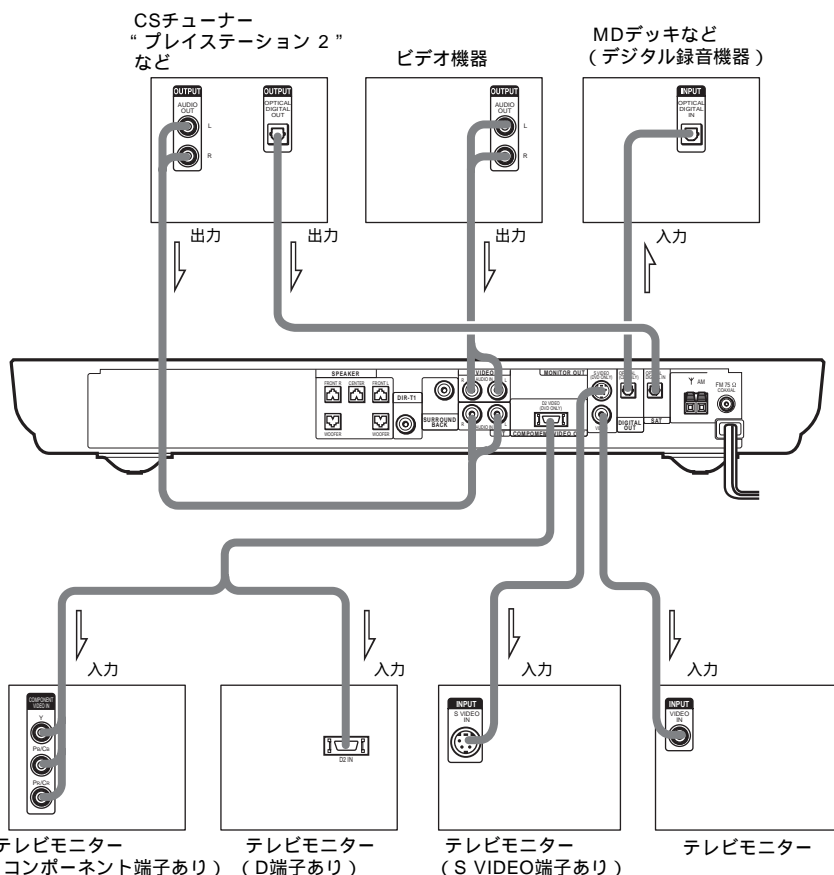
お手持ちのテレビモニター側でもSビデオ端子につないでください。本機ではS VIDEO信号と通常のビデオ信号の変換はできません。

MONITOR OUTのVIDEO端子のかわりにCOMPONENT VIDEO OUTのD2端子につなぐときは（ケーブル別売）

お手持ちのテレビモニター側でもD端子入力、またはCOMPONENT VIDEO IN（Y、PB/CB、PR/CR）端子につないでください。プログレッシブ（525p）方式に対応したテレビとこの接続をしたときは、「画面設定」の「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定できます（95ページ）。

ご注意

- ビデオ信号は以下のように出力されます。
  - 「コンポーネント出力」を「インターレース」に設定したとき（95ページ）（初期設定）
    S VIDEO端子とVIDEO端子からビデオ信号を出力します。
  - 「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定したとき（95ページ）
    COMPONENT VIDEO OUTのD2端子からのみビデオ信号を出力します。
- ビデオデッキまたは衛星放送チューナーなどをVIDEO端子またはSAT端子に接続した場合は、ファンクションをVIDEOまたはSATに切り替えてください（84ページ）。
- S VIDEO端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子は、DVDモード時（ファンクションボタンで「DVD」を選んでいる状態）のみビデオ信号が出力されます。

次のページへつづく

ご注意

- 不必要なノイズを防ぐために、接続はしっかりと行ってください。
- テレビやビデオデッキなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- テレビの音声を本機で出力することはできますが、本機の音声をテレビへ出力することはできません。

テレビやゲーム機（“プレイステーション 2”など）の音声を本機のスピーカーで聞きたいときは

テレビやゲーム機の音声出力端子と、本機のVIDEO AUDIO IN（L/R）をオーディオ接続コード（別売）でつないでください。音声が歪んだりするような場合は、本機のSAT AUDIO IN（L/R）につないでください。

コンポーネント映像の信号に対応した入力端子を持つテレビモニターなどとつなぐとき

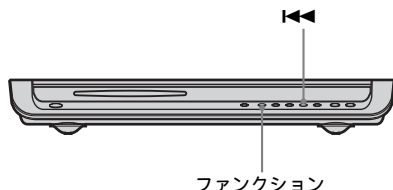
D端子ケーブル（別売）、またはD端子付コンポーネントビデオケーブル（別売）を使って、D映像入力端子、またはコンポーネント端子につなぎます。特にD端子ケーブルでの接続は、ケーブル1本で簡単にコンポーネント映像で接続でき、より高画質な画像を楽しめます。テレビ側の映像入力の対応については次ページの表をご確認ください。

本機ではD2映像（コンポーネント信号）と通常のビデオ信号の変換はできません。

本機とテレビモニターを接続するケーブル	テレビ側入力端子	本機の映像出力	
		プログレッシブ	インターレース
D端子ケーブル	D2端子以上	○	○
D端子ケーブル	D1端子	×	○*1
D端子付コンポーネントビデオケーブル	コンポーネントビデオ端子	△*2	○

*1 画面設定の「コンポーネント出力」を「インターレース」にしてください（95ページ）。
*2 プログレッシブ信号の自動判別に対応しているかテレビメーカーにご確認ください。

あやまってプログレッシブの設定にしてしまったときは

コンポーネント映像の信号に対応していないテレビモニターと接続していて、「コンポーネント出力」を「プログレッシブ」に設定すると、画面になにも映らなくなったり、画面にノイズが出たりします。その場合は、以下のようにして「インターレース」設定にします。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、「DVD」を表示窓に表示させる。

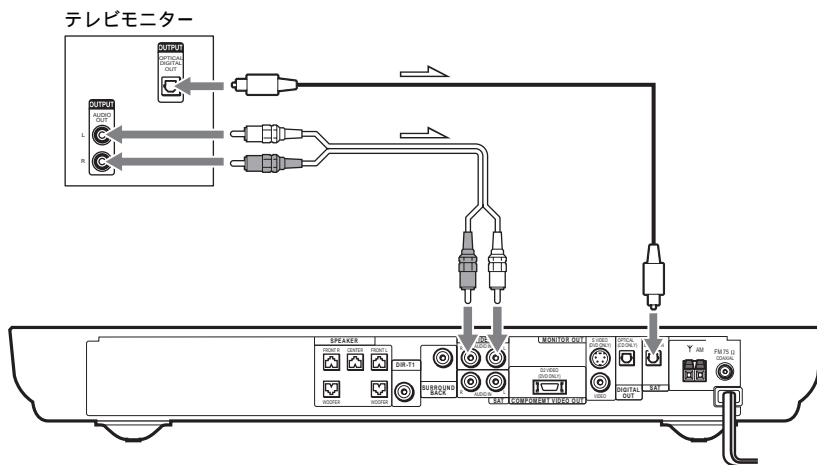
2 ⏮ ボタンを押しながら、ファンクションボタンを押す。

映像出力がインターレース信号に設定されます。

OPTICAL入力端子を使ってBSデジタル/デジタルCSチューナーなどにつなぐときは

OPTICAL出力端子のあるBSデジタル/デジタルCSチューナなどを接続する場合、音声入力についてはVIDEOまたはSATのAUDIO IN端子を使った接続（アナログ接続）に加え、OPTICAL DIGITAL IN端子を使った接続（デジタル接続）を同時にすることができます。デジタル接続のほうがより高音質を楽しむことができます。OPTICAL DIGITAL IN端子の入力がない場合は、2秒後に自動的にSATのAUDIO IN端子の入力に切り換わります。

本機のデジタル入力は、BSデジタル放送のMPEG-2 AACに対応しています（96ページ）。BSデジタル放送のMPEG-2 AACを聞くには、BSデジタルチューナー側のデジタル出力設定も「AAC」に切り換える必要があります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

音声出力端子のあるテレビとつなぐ

AUDIO OUT（音声出力）端子①と本機のVIDEOまたはSATのAUDIO IN端子をオーディオ接続コード（別売り）で接続します。お使いのテレビにAUDIO OUT端子がない場合は、テレビの音声を本機で楽しむことはできません。また、お使いのテレビに光デジタル音声出力端子②がある場合は、本機のOPTICAL DIGITAL IN端子に光デジタル（OPTICAL）接続コード（別売り）で接続してください。

テレビの音声をすべてのスピーカーで楽しむときは

サウンドフィールドを切り換えないと、すべてのスピーカーからは音が出ない場合があります。詳しくは69ページをご覧ください。

手順4：電源コードを接続する

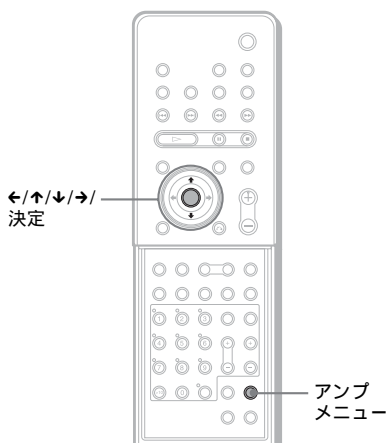
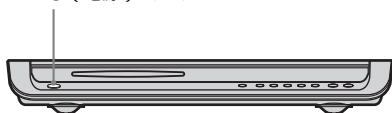
スピーカーやその他の機器をつないでから（17〜30ページ）、本機とサラウンドスピーカー（L）の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

サラウンドスピーカー（L）（左）を（右）側に置くには

コンセントの位置によってサラウンドスピーカー（L）の位置を変えることができます。

カバーをあけた状態

1 本体のI/⏻（電源）スイッチを押して本体の電源を入れる。

2 アンプメニューボタンを押す。

3 ↑/↓を使って表示窓に「CUSTOMIZE」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

カスタマイズモードになります。

4 ↑/↓を使って表示窓に「SL SR REV」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

5 ↑/↓を使って表示窓にお好みの設定を表示させる。

■OFF（オフ、初期設定）

サラウンドスピーカー（L）を（左）側に置く設定になります。

■ON（オン）

サラウンドスピーカー（L）を（右）側に置く設定になります。

6 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

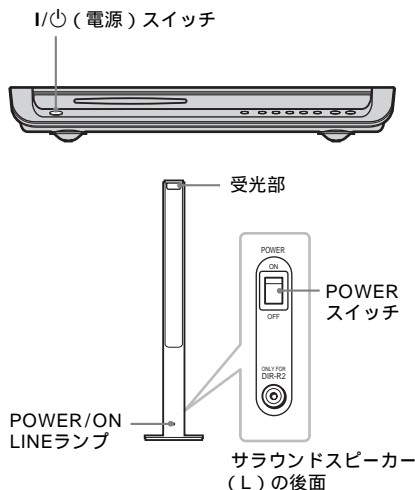
手順5：ワイヤレスシステムを設置する

スピーカー、発光ユニット、電源コードなどをつないでから、赤外線の送受信がうまくいくように、ワイヤレスシステムの設置、調整をします。

1　本体のI/⏻（電源）スイッチ、サラウンドスピーカー（L)のPOWERスイッチを押して電源を入れる。

本体とサラウンドスピーカー（L)の電源が入り、サラウンドスピーカー（L)のPOWER/ON LINEランプが赤色に点灯します。

2　発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の受光部が一直線上に向かい合うように、それぞれを置く。

サラウンドスピーカー（L)のPOWER/ON LINEランプが緑色に点灯するように、位置を調整します。

ちょっと一言

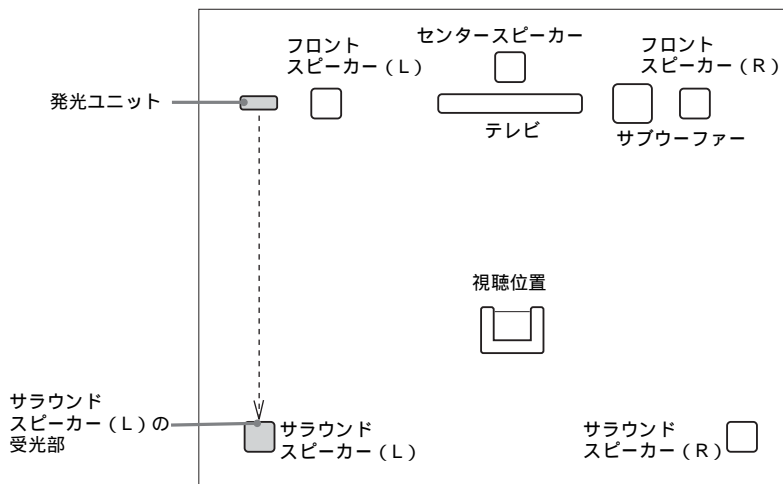
発光ユニットは、コンパクトで、角度調節がしやすくなっていますので、先にサラウンドスピーカー（L）の位置を決めてから、発光ユニットの位置、角度を調節すると良いでしょう。

ご注意

- 発光ユニットとサラウンドスピーカー（L)の受光部の直線上に、人、物などの障害物がないように設置してください。サラウンドスピーカーの音が途切ることがあります。
- POWER/ON LINEランプが赤色に点灯している場合は、赤外線の送受信不可状態です。POWER/ON LINEランプが緑色に点灯するように、発光ユニット、サラウンドスピーカー（L）の位置、角度を調整してください。
- POWER/ON LINEランプが赤色に点滅している場合は、他のソニー製品の赤外線を受信しています。POWER/ON LINEランプが緑色に点灯するように、発光ユニット、サラウンドスピーカー（L）の位置、角度、または他のソニー製品の発光ユニットの位置を調整してください。

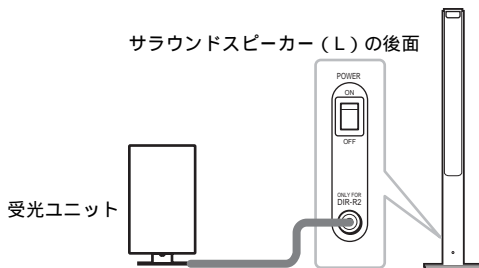
推奨設置例

下図のように発光ユニット、サラウンドスピーカー（L）を設置します。
発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の受光部が一直線上に向かい合うように設置して、サラウンドスピーカー（L)のPOWER/ON LINEランプが緑色に点灯するように、位置を調整します。

上から見たところ

付属の受光ユニットを使う

発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の間に障害物があるときや、スピーカーのレイアウト（スピーカーを視聴位置に向けたいときなど）によって、赤外線の送受信がうまくできない場合は、付属の受光ユニットを使用します。
受光ユニットはコンパクトで、設置もしやすくなっています。

受光ユニットを接続するには

受光ユニットをサラウンドスピーカー（L）のDIR-R2端子に接続します。

ご注意

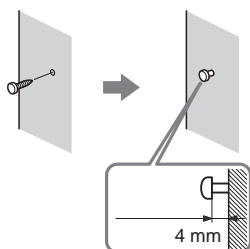
- 受光ユニットをサラウンドスピーカー（L）に接続すると、自動的にサラウンドスピーカー（L）の受光部がオフになり、接続した受光ユニットで受信するようになります。
- 受光ユニットの調整は、サラウンドスピーカー（L）の受光部と同じように行ってください。

発光ユニット、付属の受光ユニットを壁にかける

発光ユニットと受光ユニットの間に障害物がある場合や、ユニット間を人が通ることが多い場合などには、発光ユニット、受光ユニットを壁にかけることができます。

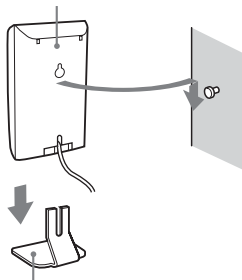
受光ユニットを壁にかけるには

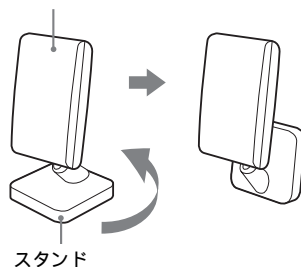
1 市販のネジを壁に取り付ける。

ネジが壁から4mm出ているように取り付けます。

2 受光ユニット用スタンドをはずして、裏面の穴をネジにかける。

壁にかけたあと、しっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ちょっと一言

受光ユニットを壁からはずして使用する場合は、受光ユニットとスタンドの三角マークが合うように、スタンドを差し込んでください（18ページ）。

発光ユニットを壁にかけるには

1 発光ユニットのスタンドを下図のように回す。

2 市販のネジ（2個）を壁に取り付ける。

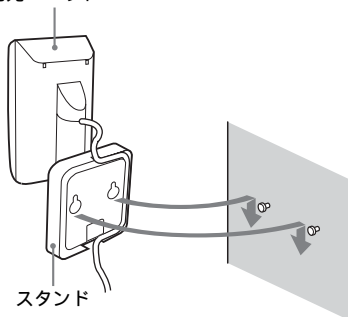
ネジが壁から4mm出ているように取り付けます。2個のネジは同じ高さで30mm離して取り付けます。

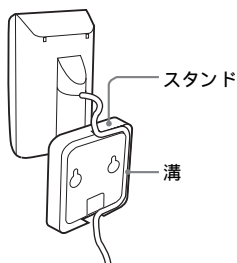
次のページへつづく

3 スタンド底面の穴をネジにかける。

壁にかけたあと、しっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ちょっと一言

以下の図のように、コードをスタンド底面の溝に収納することもできます。

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。
- 強度の弱い壁には取り付けないでください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。
- コードを抜き差しするときは、発光ユニットまたは受光ユニットを壁から取り外してください。

手順6：クイック設定をする

手順1～5の接続、設定を済ませたら、クイック設定で本体の言語設定や、サラウンド設定（部屋の大きさや、視聴位置の設定）、接続するテレビの画面の縦横比などの設定をします。

カバーをあけた状態

1 テレビの電源を入れる。

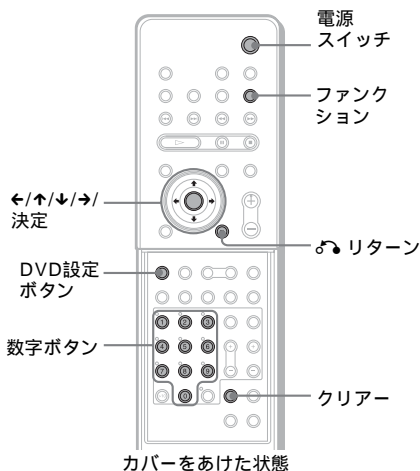
2 テレビの入力を本機をつないだ入力（「ビデオ」など）に切り換える。

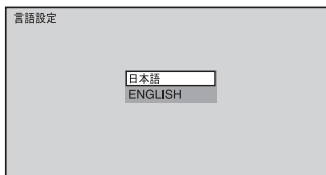
3 本体のI/⏻（電源）スイッチを押す。

4 ファンクションボタンを押して表示窓に「DVD」を表示させる。

画面にメッセージが表示されます。

ご注意

本機にディスクが入っていると、メッセージは表示されません。

5 決定ボタンを押す。

「言語設定」画面が表示されます。

ご注意

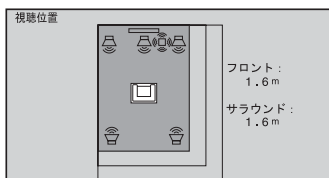
ここで設定した言語は、「画面表示言語」、「DVDメニュー言語」、「字幕言語」の設定に反映されます（93ページ）。

6 ↑/↓を使ってお好みの言語を選び、決定ボタンを押す。

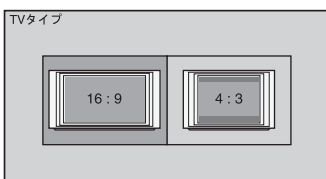
設定が決定され、「部屋の大きさ」画面が表示されます。

次のページへつづく

7 ↑/↓を使って本機を置く部屋に合った設定（「小」、「中」または「大」）を選び、決定ボタンを押す。

設定が決定され、「視聴位置」画面が表示されます。

設定できる視聴位置の数は、手順6で設定した「部屋の大きさ」の設定によって以下のように変わります。
「小」：3種類
「中」：4種類
「大」：5種類

8 ↑/↓を使って視聴位置を選び、決定ボタンを押す。

設定が決定され、「TVタイプ」画面が表示されます。

9 ←/→を使って本機に接続したテレビ画面の縦横比を選び、決定ボタンを押す。

クイック設定が完了します。
クイック設定を終えると、設定が保存され、次回から電源投入時にメッセージが表示されなくなります。

設定を失敗したときは

リターンを押して、もう一度設定をし直してください。

クイック設定をやめるには

DVD設定ボタンを押します。

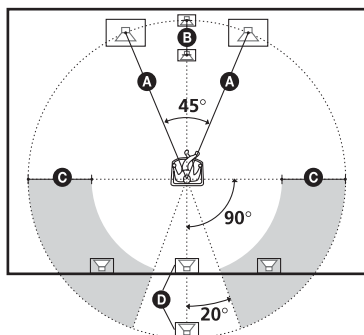
ご注意

- 本体の電源を入れ、メッセージが表示されているときに、クリアーボタンを押すと、メッセージを消すことができます。クイック設定を行いたい場合は、設定画面の「クイック」で行います（104ページ）。
- 手順9で「4：3」に設定すると、「4：3レターボックス」に設定されます（94ページ）。
- 各スピーカーの位置やレベル設定は、クイック設定の「部屋の大きさ」、「視聴位置」の設定によって決まります（97ページ）。
- 各設定を変更したい場合は、「スピーカーの設定」（97ページ）をご覧ください。
- 「部屋の大きさ」、「視聴位置」などの画面はあくまで例であり、実際の部屋、レイアウトとは異なります。「スピーカーの設定」（97ページ）で設定されたものは、ここでは表示されません。

スピーカーの設定をする

スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください。本機ではフロントスピーカーをリスニングポジションから1 m～7 mのところに設置が可能です（距離 Ⓐ）。
ただし本機ではご使用になる部屋の形に対応するため、以下の設置も可能です。具体的な設置場所については下図をご覧ください。

- センタースピーカーを、リスニングポジションを中心とした同心円上からリスニングポジションに向かって0 m～約1.6 m（距離 Ⓑ）近づける。
- サラウンドスピーカーを、リスニングポジションを中心とした同心円上からリスニングポジションに向かって0 m～約4.6 m（距離 Ⓒ）近づける。

ご注意

- センタースピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。
- 市販のサラウンドバックスピーカーをご使用になる場合は、視聴位置の真後ろ（上図のⒹの位置）に置きます。この場合、「スピーカー設定」の「サラウンドバック」を「あり」に設定してください（97ページ）。

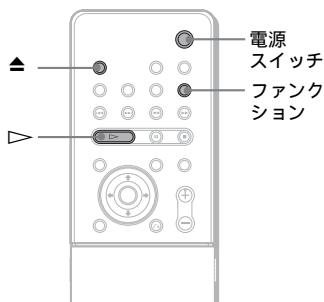
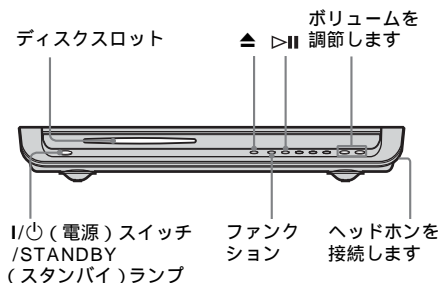
スピーカーの防磁について（テレビ画面に色むらが起きたら）

本機サブウーファーに使用しているスピーカーユニットは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用していますが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じます。ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使用する場合は十分に（約30 cm）離してご使用ください。本機をこれらに近づけると画面に色むらが生じる場合があります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。さらにスピーカーの近くに磁気を発生するものがないようにご注意ください。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合があります。
磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

設定画面を見ながらスピーカーの設定をする

ドルビーサラウンドを十分に楽しむために、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、バランスやレベルを設定します。テストトーンを使って、各スピーカーの音量が同じレベルになるように調節します。
スピーカーは、スピーカー設定画面を使って設定します（97ページ）。

ディスクを再生する

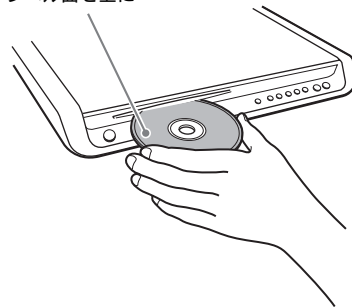
再生するディスクによって操作が違ったり、禁止されている操作もあります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

1 テレビの電源を入れる。

2 テレビの入力を本機をつないだ入力（「ビデオ」など）に切り換える。

3 本体のI/⏻（電源）スイッチを押す。

本機の電源が入ります。本機のモードがDVDになっていない場合は、ファンクションボタンでDVDを選んでください。
ディスクを入れる準備が整うと、「NO DISC」と表示されます。

4 ディスクを入れる。

自動的にディスクが引き込まれるまでディスクを押し込んでください。正常に挿入すると、「READING」と表示されます。

5 リモコンの▷ または▷II ボタンを押す。

再生が始まります。
VOLUME＋/－ボタンで音量を調整します。

手順5の後に

ディスクによっては、テレビ画面にメニューが表示されることがあります。そのときは表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって、操作をして再生します。（DVD：43ページ、ビデオ CD：44ページ）

ディスクを取り出すには

⏏を押します。
ディスクが出てきたあと本体から引き抜いてください。本体の表示窓に「NO DISC」と表示されます。

電源を入れるには

本体のI/⏻（電源）スイッチを押します。本機の電源が入ります。
ディスクを本機に入れても電源が入ります。

電源を切るには

リモコンの電源ボタンを押します。本機はスタンバイモードになり、STANDBYランプが赤く点灯します。
完全に電源を切る場合には、電源コードをコンセントから抜いてください。
また、ディスクの再生中に電源ボタンを押して電源を切らないでください。メニュー設定などが保存されません。■ボタンを押して再生を止めてから、電源ボタンを押して電源を切ってください。

スタンバイモードで省電力

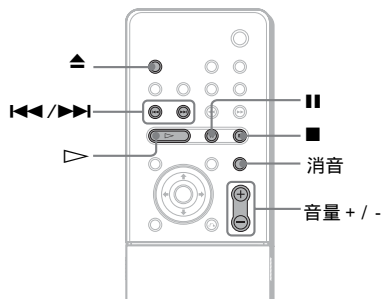
本体のI/⏻（電源）スイッチまたはリモコンの電源ボタンを一回押します。

ちょっと一言

本機がスタンバイモードに入っているときは、本体のSTANDBYランプが点灯します。

スタンバイモードを解除する

リモコンの電源ボタンを一回押します。

いろいろな操作方法

こんなときは	こうする
止める	■ を押す
途中で止める*	❚❚ を押す
途中で止めたあと、つづきを再生する	❚❚ または ▷ を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	⏭ を押す
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	⏮ を押す
再生を止めてディスクを取り出す	⏏ を押す
消音する	消音ボタンを押す。消音をキャンセルするには、もう一度消音ボタンを押すか音量+/−ボタンで音量を上げる。

＊ JPEG再生時は一時停止できません。

ご注意

- ディスクが入っていない場合は「NO DISC」が表示されます。
- DVDの一時停止状態で約1時間経過すると、自動的に電源が切れます。

再生を止めたところから再生する

（リジューム再生）

再生を止めたあと、そのつづきから再生できます（再生を止めたあとに「RESUME」が表示されます）。ディスクを取り出さない限り、本機がスタンバイモード（待機状態）になってもリジューム再生が働きます。

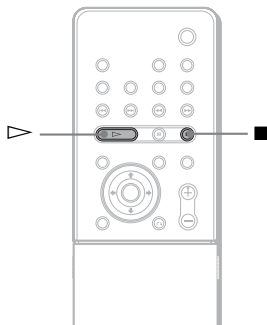
1 ディスクの再生中、■ を押して、再生を止める。

表示窓に「RESUME」と表示されます。「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷ を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ご注意

- 再生モードがプログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消えリジューム再生できません。
  ー 再生モードを変えたとき
  ー 設定画面で設定を変更したとき

ちょっと一言

ディスクを最初から再生したいときは、■ を2回押してから、▷ を押します。

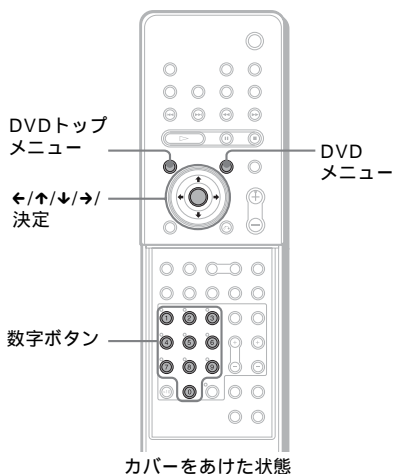
DVDに記録されているメニューを使う

DVD

複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、DVDトップメニューボタンで好きなタイトルを選べます。
ディスクの内容をメニューで選択できるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをDVDメニューボタンで選べます。

1 DVDトップメニューボタンまたはDVDメニューボタンを押す。

ディスクに記録されたメニューが表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

2 再生または変更したい項目を←/↑/↓/→または数字ボタンで選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

ご注意

DVD再生中にDVDトップメニューまたはDVDメニューを表示した状態で約1時間経過すると、自動的に電源が切れます。

プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う

（PBC再生）

PBC（Playback Control）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビ画面に表示される選択用のメニューにしたがって再生を進めていくことです。

1 PBC対応ビデオCDを再生する。

選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を↑/↓または数字ボタンで選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

4 テレビ画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

リターンを押す。

ご注意

- ディスクによっては手順1でメニュー画面が表示されないことがあります。
- ディスクによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは▷を押してください。

ちょっと一言

PBC機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭を押して再生したいトラックを選んでから、▷または決定ボタンを押します。画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

MP3音声を再生する

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）に記録されているMP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声を再生できます。
ディスクはISO9660のレベル1/レベル2/Joliet準拠で記録されたものが再生可能です。
本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。
記録方式について詳しくはCD-R/CD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

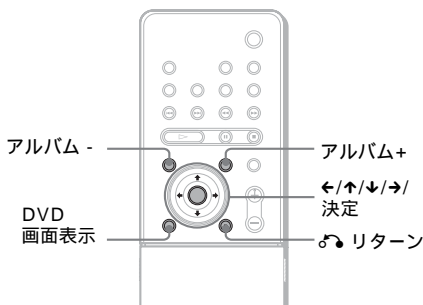
1 MP3音声が記録されたデータCDを本機に入れる。

2 ▷を押す。

ディスクに記録されている最初のアルバムの最初のトラックが再生されます。

ご注意

- 本機はMPEG1 Audio Layer3に対応します。本機はMP3PROで記録された音声には対応していません。
- 本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。
  MP3 音声がディスクの最初のセッションに記録されているときは、その他のセッションのMP3音声も再生します。
- アルバムの最大数は99です。（MP3のアルバムに記録されるトラック数の最大数は250です。）
- MP3音声を含まないアルバムはスキップします。
- MP3形式以外のデータに「.MP3」の拡張子をつけると、本機はそれらを再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- MP3音声が再生できないときは、設定画面の「視聴設定」を選びます。「視聴設定」の「データCD優先モード」を「MP3」に変更してください。（97ページ）
- サポートされるディレクトリの深さは8階層までです（第1階層を含む）。

アルバムおよびトラックを選んで再生する

1 DVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面とMP3データディスクの名前が表示されます。

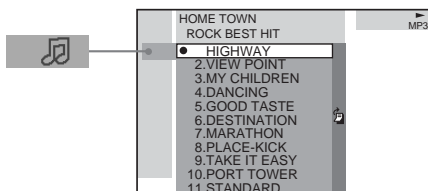
2 ↑/↓ で [アルバムアイコン]「アルバム」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

ディスクに記録されているアルバム名が表示されます。

3 ↑/↓で再生したいアルバムを選び、決定ボタンを押す。

次のページへつづく

4 ↑/↓で 「トラック」を選び、決定ボタンを押す。

選ばれているアルバムの中のトラックが表示されます。

アルバムまたはトラックのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。→を押してジャンプバーを選びます。↑/↓でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示させることができます。←またはリターンを押すと、アルバムまたはトラックのリストに戻ります。

5 ↑/↓ で再生したいトラックを選び、決定ボタンを押す。

選んだトラックの再生が始まります。

1つ前の画面に戻るには

リターンまたは←を押します。

画面表示を消すには

DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意

- アルバム/トラック名は、アルファベットまたは数字のみ表示できます。それ以外の文字は正しく表示されません。
- 再生中のMP3ファイルにID3タグが記録されている場合は、トラック名の代わりにID3タグ情報が表示されます。
- ID3タグはバージョン1のみに対応しています。
- VBR（可変ビットレート）のMP3を再生したときは、再生経過時間が実際と異なる場合があります。
- ディスクを再生する、または上記の手順2でアルバムを選ぶ前に、アルバム名が「XXアルバム」（XXはアルバム総数を示します）と画面に表示されます。

ちょっと一言

ディスクがMP3音声のとき、アルバム+ボタンまたはアルバム−ボタンでアルバムを選ぶことができます。

JPEG画像を再生する

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）に記録されているJPEG画像ファイルを再生できます。
ディスクはISO9660のレベル1/レベル2/Joliet準拠で記録されたものが再生可能です。
本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。
記録方式について詳しくはCD-R/CD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

1　JPEG画像が記録されたデータCDを本機に入れる。

2　▷を押す。

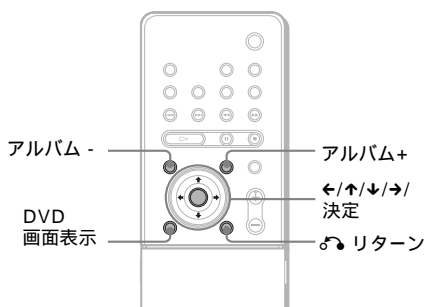
ディスクに記録されている最初のアルバムの最初のファイルが再生されます。

ご注意

- 本機は拡張子「.JPEG 」または「.JPG 」のJPEG画像に対応しています。
- 本機ではマルチセッションで記録したディスクも再生できます。JPEGファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、その他のセッションのJPEGファイルも再生します。
- JPEGファイルを含まないアルバムはスキップします。
- JPEGファイルが再生できないときは、設定画面の「視聴設定」を選びます。「視聴設定」の「データCD優先モード」を「JPEG」に変更してください。（97ページ）
- 縦または横が4,720ドット以上のJPEGファイルは表示できません。
- ファイル形式によっては一部再生できないファイルがございます。
- サポートされるディレクトリの深さは8階層まで です（第1階層を含む）。
- プログレッシブJPEGファイルは再生できません。
- アルバムの最大数は99です。（JPEGのアルバムに記録されるファイル数の最大数は250です。）

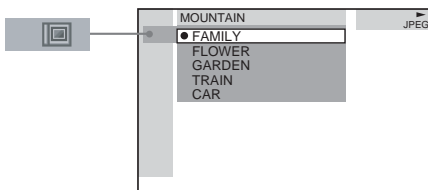
ちょっと一言

- 次のファイルまたは前のファイルに移動するには、|◀◀や▶▶|を押します。

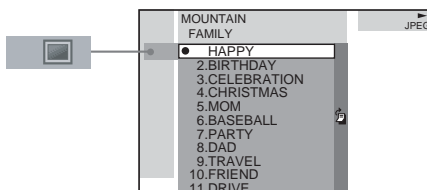
アルバムおよびファイルを選んで再生する

1 DVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面とJPEGデータディスクの名前が表示されます。

2 ↑/↓ で 「アルバム」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

ディスクに記録されているアルバム名が表示されます。

3 ↑/↓ で再生したいアルバムを選び、決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ で 「ファイル」を選び、決定ボタンを押す。

選ばれているアルバムの中のファイルが表示されます。

アルバムまたはファイルのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。→を押してジャンプバーを選びます。↑／↓でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示させることができます。←またはリターンを押すと、アルバムまたはファイルのリストに戻ります。

5 ↑/↓ で再生したいファイルを選び、決定ボタンを押す。

選んだファイルの再生が始まります。

1つ前の画面に戻るには

リターンまたは←を押します。

画面表示を消すには

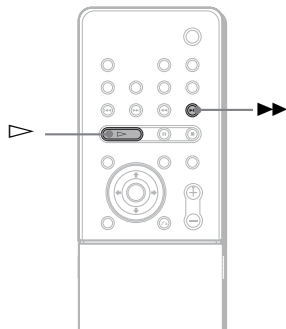
DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意

- アルバム/ファイル名は、アルファベットまたは数字のみ表示できます。それ以外の文字は正しく表示されません。
- ディスクを再生する、または上記の手順2でアルバムを選ぶ前に、アルバム名が「XXアルバム」（XXはアルバム総数を示します）と画面に表示されます。

ちょっと一言

ディスクがJPEG画像のとき、アルバム+ボタンまたはアルバム－ボタンでアルバムを選ぶことができます。

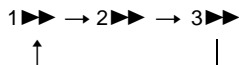
スライドショーを楽しむ

1　静止画の再生中に▶▶を押す。

現在表示中の画面からスライドショーが始まります。

2　静止画に戻したい場合は▻を押す。

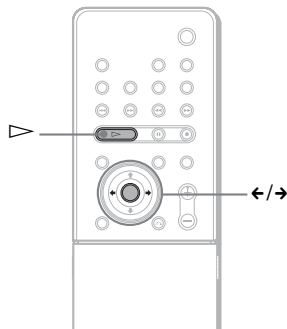
現在表示中の画面でスライドショーから静止画表示に戻ります。

スライドショーの表示間隔を変えるには

スライドショー中に▶▶を繰り返し押すと表示間隔が変わります。
ボタンを押すたび次のように表示間隔が切り換わります。

1▶▶ → 2▶▶ → 3▶▶の順で表示間隔が短くなります。

ご注意

スライドショーは順方向のみ可能です。

静止画を回転させるには

←/→で静止画を回転させる。

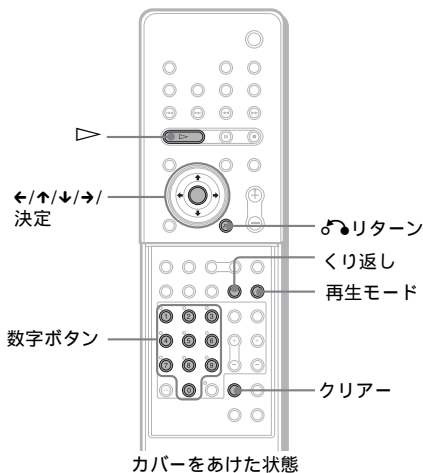
→を押すたびに、画像が時計回りに90°回転します。
←を押すたびに、時計と逆回りに90°回転します。

ご注意

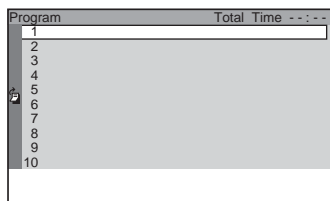
スライドショー表示中は操作できません。一度▻で静止画表示に戻してから操作してください。

好きな順に再生する

（プログラム再生）

ディスクの中のトラックまたはアルバムを選んで好きな順に再生できます。最大25のトラックまたはアルバムを、再生したい順にプログラムできます。

1 停止中に、リモコンの再生モードボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「PGM」を表示させる。

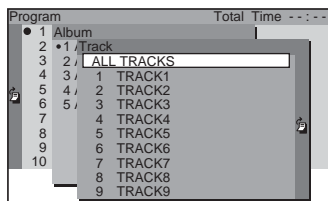
テレビにプログラム設定画面が表示されます。

ここでは例としてMP3ディスクのトラックを選びます。

プログラムされたトラックやアルバムのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。

プログラムしたトラックやアルバムを確認するには、←を押してジャンプバーを選び、↑/↓でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示します。→またはリターンを押すと、トラックのリストに戻ります。

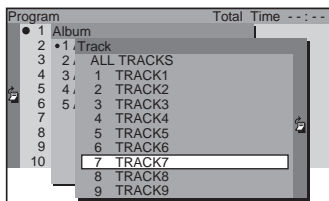
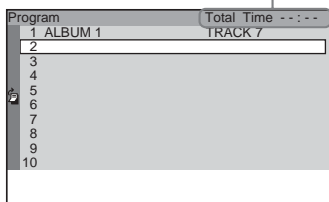
ジャンプバーは10以上プログラムされているときに選ぶことができます。

2 →を押す。

プログラム1が選ばれます。MP3のトラックをプログラムする場合は、トラックの前にアルバムを選択する必要があります。

トラックのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。→を押してジャンプバーを選びます。↑/↓でジャンプバーをスクロールして、残りのリストを表示できます。←またはリターンを押すと、トラックのリストに戻ります。

ジャンプバーは10以上トラックがあるときに選ぶことができます。

3 プログラムしたいトラックを選ぶ。

例）「トラック7」を選びます。

4 ↑/↓ または数字ボタンで「トラック7」を選び、決定ボタンを押します。

5 他に再生するトラックを設定したいときは、手順2から4を繰り返す。

選んだトラックがプログラム設定画面の 2、3、. . . に順に表示されます。

6 ▷を押す。

プログラムした順に再生が始まります。プログラム再生が終わった後、▷を押すともう一度同じプログラムを再生できます。

こんなときは	操作
プログラム設定画面を消すには	停止中に再生モードボタンを押します。
設定したプログラムを消すには	手順5でクリアーボタンを押すと、最後に入力したプログラムから順に消去されていきます。

ご注意

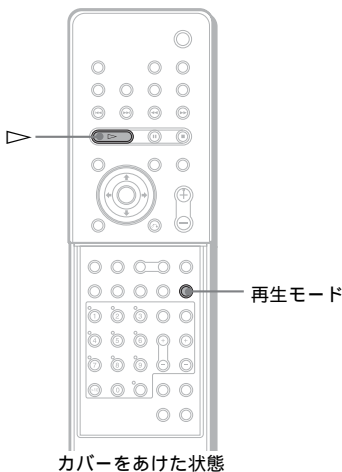
- DVDとJPEG画像はプログラム再生できません。
- ディスクを取り出すとプログラムは解除され、登録していたプログラムも消去されます。
- MP3トラックをプログラムすると、プログラムしたトラックの総時間として「- - : - -」が表示されます。

ちょっと一言

設定したプログラムで「リピート再生」もできます。プログラムを再生中に、くり返しボタンを押します。またはプログラム再生中に、コントロールメニュー画面で「リピート」を「全部」にします。（53ページ）

順不同に再生する

（シャッフル再生）

ディスク上に記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。

1　停止中に、リモコンの再生モードボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「SHUF」を表示させる。

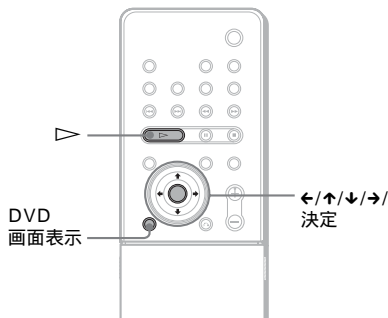
MP3のデータディスクを再生している場合は、コントロールメニューを使ってアルバムの中のトラックをシャッフル再生することもできます。

2　▷を押す。

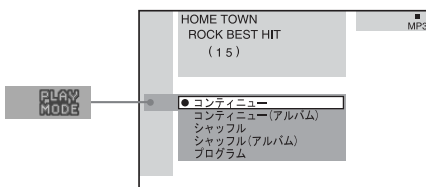
通常の再生に戻すには

停止中に再生モードボタンを繰り返し押して本体の表示窓から「SHUF」を消します。

コントロールメニューで設定する

コントロールメニュー画面から、普通のシャッフル再生とアルバムシャッフル再生（MP3のみ）を選ぶことができます。

1　DVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓で PLAY MODE「プレイモード」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

3　↑/↓で「シャッフル」または「シャッフル（アルバム）」を選び、決定ボタンを押す。

シャッフル：ディスク内のトラックをシャッフル再生

シャッフル（アルバム）：選択されているアルバム内のトラックをシャッフル再生

4 ▷を押す。

選んだシャッフルモードで再生が始まります。

ご注意

シャッフルモードはディスクを取り出したとき解除されます。

モードが以下のように変わります

シャッフル → コンティニュー

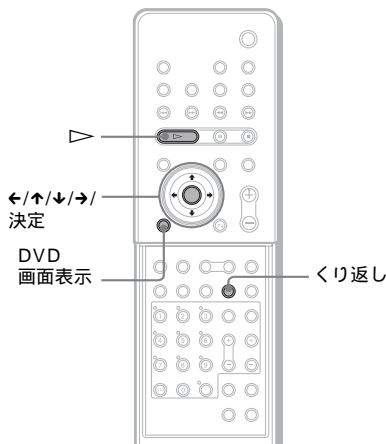
シャッフル（アルバム）→ コンティニュー（アルバム）

繰り返し再生する

（リピート再生）

ディスクのすべてのタイトル/トラック/ファイル、または1つのタイトル/チャプター /トラックを繰り返し再生できます。

シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます（DVDを除く）。

ビデオCDのPBC機能（44ページ）を使って再生しているときはリピート再生することはできません。またDVDディスクによってリピート再生できないことがあります。

カバーをあけた状態

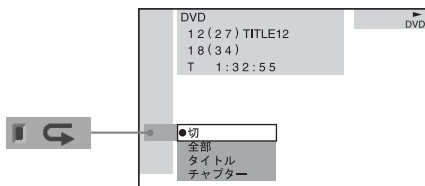
1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ で 「リピート」を選び、決定ボタンを押す。

リピート設定で「切」以外を選んでいるときは、アイコンが緑色に点灯します。

次のページへつづく

3 ↑/↓ でリピート設定の項目を選び、決定ボタンを押す。

DVDのとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCD/スーパーオーディオCD/CD/MP3のとき（プログラム再生が切のとき）

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのトラックまたは再生中のアルバムを繰り返し再生します。（MP3でプレイモードがコンティニュー（アルバム）またはシャッフル（アルバム）のときのみ）
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

JPEGのとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：すべてのファイル（プレイモードコンティニューのとき）または再生中のアルバム（プレイモードコンティニュー（アルバム）のとき）を繰り返し再生します。

プログラム再生をしているとき

- 切：リピート再生をオフにします。
- 全部：プログラム再生を繰り返し再生します。

ご注意

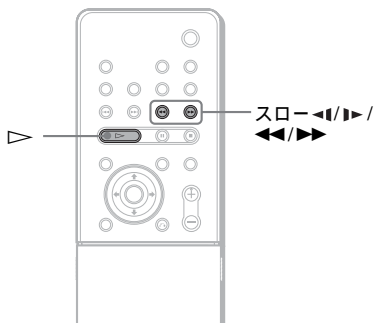
- DVDはディスクによってリピート再生できないことがあります。
- リピート再生は、ディスクを取り出したとき解除されます。
- 「全部」を選ぶとリピート回数は5回に制限されます。

ちょっと一言

- 停止中にリピート再生を設定できます。
  くり返しボタンで項目を選び、▷を押します。
  リピート再生が始まります。
- くり返しボタンを押して、「リピート」を直接選べます。
- DVDの場合、チャプターがあるタイトルはリピート設定できます。

見たいところ、聞きたいところをさがす

（スキャン/スロー再生）

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところをさがしたり、スロー再生をすることができます。

ご注意
- DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。
- スキャン/スロー再生中は音がでません。

早送り再生/早戻し再生をして見たいところ、聞きたいところをさがす（スキャン）

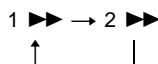
1 再生中に早送りするには ▶▶ を、早戻しをするには ◀◀を押す。

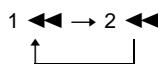
2 ▷を押す。

通常の再生に戻ります。

スキャンのスピードを変えるには（DVD/ビデオCDのみ）

スキャン中に◀◀または▶▶を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。

ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

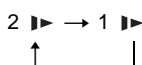
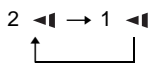
逆方向

1◀◀/1▶▶ より、2◀◀/2▶▶ のほうが、高速で再生します。

スロー再生をする（DVD/ビデオCDのみ）

一時停止中に ◀II またはII▶ を押す。

▷を押すと通常の再生に戻ります。

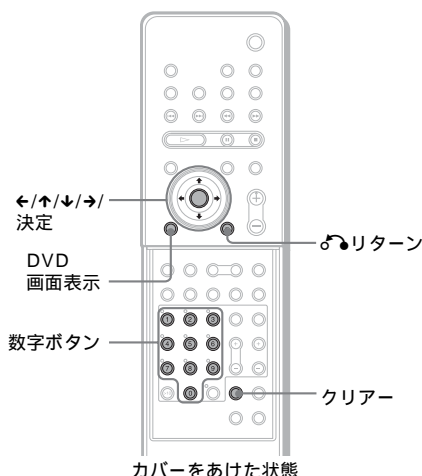
ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

逆方向（DVDのみ）

1 II▶/1 ◀II より2 II▶/2 ◀II のほうが、低速で再生します。

スロー再生の速さを変えるには

スロー再生中、◀II またはII▶ を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。

タイトルやチャプター、トラック、インデックス、アルバム、ファイルを使って頭出しする

タイトル（DVD）、チャプター（DVD）、トラック（CD、ビデオCD、スーパーオーディオCD、MP3）、インデックス（ビデオCD、スーパーオーディオCD）、アルバム（MP3、JPEG）、ファイル（JPEG）で映像や曲を探すことができます。
タイトル、トラック、アルバムには名前がつけられているので、コントロールメニュー画面からその名前を選んで頭出しします。またチャプターとインデックスにはディスク上で番号がつけられているので、その番号を入力して頭出しします。また、経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ）。
ビデオCD（プレイバックコントロール機能がオンのとき）のサーチはできません。

タイトル/トラック/アルバム/ファイルで検索する

1 DVD画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で検索項目を選び、決定ボタンまたは→を押す。

■ **DVDのとき**
（タイトル）

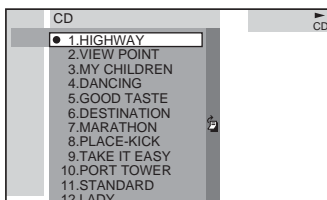
■ **ビデオCDのとき**
（トラック）

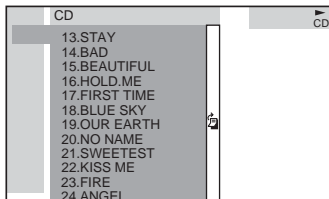
■ **スーパーオーディオCDのとき**
（トラック）

■ **CDのとき**
（トラック）

■ **MP3のとき**
（アルバム）または
（トラック）

■ **JPEGのとき**
（アルバム）または
（ファイル）

例）（トラック）を選んだとき
ディスクの中に記録されたトラックの一覧が表示されます。

アルバムまたはトラックのリストが一度に表示できない場合は、ジャンプバーが表示されます。→を押してジャンプバーを選択します。↑/↓でジャンプバーをスクロールして、残りのリスト

を表示させることができます。
←または↶リターンを押すと、アルバムまたはトラックのリストに戻ります。

3 ↑/↓で再生したいトラックを選び、決定ボタンを押す。

選んだトラックの再生が始まります。

チャプター/インデックスで検索する

1 DVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で検索項目を選び、決定ボタンを押す。

■ DVDのとき

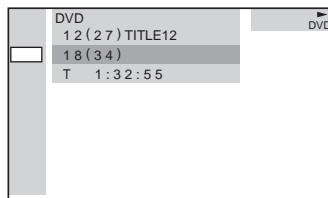
（チャプター）

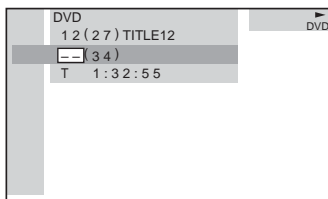
■ ビデオCDのとき

（インデックス）

■ スーパーオーディオCDのとき

（インデックス）

例）（チャプター）を選んだとき「＊＊（＊＊）」が選ばれます（＊＊は任意の数字）。
カッコ内の数字はタイトル、チャプター、トラック、インデックスの総数です。

3 決定ボタンまたは→を押す。

「＊＊（＊＊）」が「−−（＊＊）」に変わります。

4 ↑/↓または数字ボタンでチャプターまたはインデックスの番号を入力する。

間違えたときは

クリアーボタンを押して、入力しなおします。

5 決定ボタンを押す。

選んだ番号のチャプターまたはインデックスの再生が始まります。

ご注意

ビデオCDをプレイバックコントロール機能をオンにして再生しているときは、インデックスサーチは機能しません。

次のページへつづく

画面表示を消すには

DVD画面表示ボタンを押します。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ）

例）DVDで、現在のタイトルでタイムサーチを行うとき

1 手順2で　　「時間」を選ぶ。
「T ＊ ＊：＊ ＊：＊ ＊」（現在のタイトルの経過時間）が選ばれます。

2 決定ボタンまたは➔を押す。
「T ＊ ＊：＊ ＊：＊ ＊」の上に「T --：--：--」が表示されます。

3 数字ボタンでタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。
たとえば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、「2：10：20」と入力します。

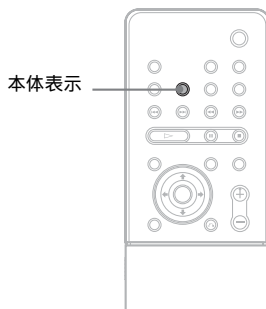
ご注意

- タイトルやチャプター、トラックの番号はディスク上に記録されている番号と同じように表示されます。
- ビデオCDのシーンサーチはできません（プレイバックコントロール機能がオンのとき）。
- DVD再生時、現在のタイトルのタイムコードを入力してください。ビデオCD、スーパーオーディオCD、CDまたMP3の再生時は現在のトラックのタイムコードを入力してください。

ちょっと一言

表示を経過時間や残り時間に切り換えることができます。詳しくは「画面を使って残り時間や名前を見る」（61ページ）をご覧ください。

表示窓で残り時間や名前を見る

表示窓で、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、ビデオCD/スーパーオーディオCD/CD/MP3の全トラック数などを調べることができます。（116ページ）

再生中、本体表示ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

DVD再生のとき

ビデオCD（PBC再生中以外）/スーパーオーディオCD/CD再生のとき

トラック番号と経過時間

TRK 3 2.30

↓ トラック番号と残り時間

TRK 3 -1.30

↓ ディスク経過時間

12.30

↓ ディスク全体の残り時間

-31.30

↓ トラック名

SONY

↓ サウンドフィールド名

A. F. D. AUTO

次のページへつづく

MP3再生のとき

JPEG再生のとき

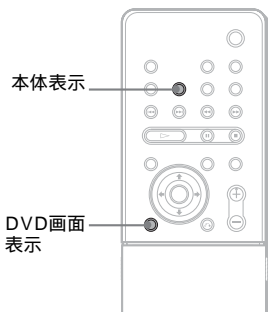
ご注意

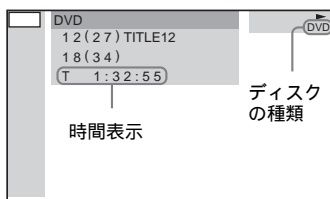
- 再生しているディスクや再生モードによっては、このような表示にならないことがあります。
- ID3タグはバージョン1にのみ対応しています。
- 再生中のMP3ファイルにID3タグが記録されている場合は、トラック（ファイル）名の代わりにID3タグ情報が表示されます。
- アルバム/トラック/ファイル名は、アルファベットまたは数字のみ表示できます。それ以外の文字は正しく表示されません。
- 以下の場合には、MP3の経過時間と残り時間が正確に表示されないことがあります。
  ー MP3のビットレートがVBR（Variable Bit Rate）の場合

ちょっと一言

- ビデオCDでPBC再生しているときは、シーンの経過時間のみ表示されます。
- 再生中のチャプターやタイトル、トラック、シーン、ディスクの経過時間および残り時間を画面に表示することができます。詳しくは、「経過時間と残り時間を見る」をご覧ください。

画面を使って残り時間や名前を見る

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。ディスクに記録されたDVD/CD/スーパーオーディオCDのテキストやMP3のフォルダ名、ファイル名、ID3タグ（曲名のみ）を見ることもできます。

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 本体表示ボタンを繰り返し押して、時間表示を切り換える。

表示や切り換えできる時間の種類はディスクによって異なります。

■ DVDのとき

- T　＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの経過時間
- T－＊＊：＊＊：＊＊
  タイトルの残り時間
- C　＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの経過時間
- C－＊＊：＊＊：＊＊
  チャプターの残り時間
- ＊＊：＊＊：＊＊
  メニューまたはチャプターがないタイトルの経過時間

■ ビデオCDをPBC再生しているとき

- ＊＊：＊＊
  シーンの経過時間

■ ビデオCD（PBC再生中以外）/スーパーオーディオCD/CDのとき

- T　＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T－＊＊：＊＊
  トラックの残り時間
- D　＊＊：＊＊
  ディスクの経過時間
- D－＊＊：＊＊
  ディスクの残り時間

■ MP3のとき

- T　＊＊：＊＊
  トラックの経過時間
- T－＊＊：＊＊
  トラックの残り時間

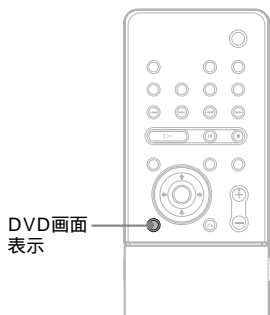
コントロールメニュー画面を消すには

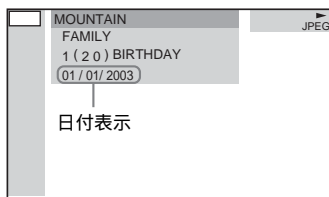
DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意

- アルファベットのテキストのみ表示できます。
- ディスクの種類によっては、限られた数の文字しか表示しません。またディスクの種類によっては、ディスクによって全てのテキストを表示しないことがあります。

JPEG画像の日付を見る（JPEGのみ）

JPEG画像ファイルでExif*タグに撮影した日付の情報が記録されている場合、再生中にその日付情報を見ることができます。

再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

* Exchangeable Image File Formatは日本電子工業振興協会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

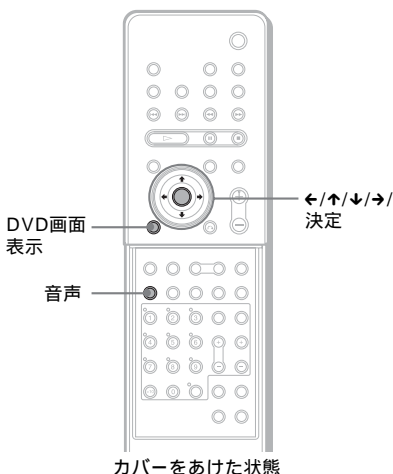
ご注意

撮影日データが存在しない場合またはデータが壊れている場合は、撮影日は表示されません。

ちょっと一言

この日付表示形式は「視聴設定」で変更できます。（97ページ）

音声を切り換える

DVDの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD、ビデオCD、MP3再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオCDなどで、伴奏だけを聞くこともできます。スーパーオーディオCDには、マルチチャンネル再生対応のものやスーパーオーディオ信号と普通のCDの信号の両方記録されているものなど、いくつかの音声記録方式があり、それらを選んで再生することができます。

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で「音声」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

「音声」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓で音声を選ぶ。

■ DVDのとき

選べる言語はDVDによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（121ページ）を参照してください。同じ言語が2個以上表示されたときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。

■ ビデオCD/CD/MP3のとき

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

■ スーパーオーディオCDのとき

停止中に設定します。ディスクによって選べる項目が変わります。

- マルチ：マルチチャンネルエリアの再生
- 2CH：2チャンネルエリアの再生
- CD：普通のCD記録部の再生

次のページへつづく

ご注意
- ディスクによって選べない項目があります。
- スーパーオーディオCDの2チャンネルエリアまたは2CH STEREOモードで再生している場合、サラウンドスピーカー（L）のPOWER/ON LINEランプが赤く点灯します。

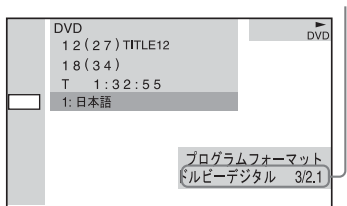
4 決定ボタンを押す。

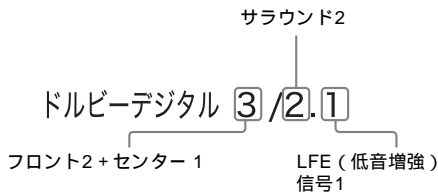
コントロールメニュー画面を消すには
DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意
- 複数の音声が記録されていないディスクでは、音声の切り換えはできません。
- DVD再生中、自動的に音声が切り換わることがあります。

ちょっと一言
音声ボタンで直接「音声」を選ぶことができます。音声ボタンを繰り返し押して設定します。

再生しているチャンネルを表示する DVD

「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。
例えばドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。

* 「PCM」または「DTS」、「ドルビーデジタル」が表示されます。
「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが次のように数字で表示されます。

（ドルビーデジタル5.1chの場合）

画面表示の例
- PCM（ステレオ）

プログラムフォーマット
PCM 48kHz 24bit

- ドルビーサラウンドのとき

プログラムフォーマット
ドルビーデジタル 2/0
ドルビーサラウンド

- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき

プログラムフォーマット
ドルビーデジタル 3/2.1

- DTSのとき

プログラムフォーマット
DTS 3/2.1

ちょっと一言
- LS、RS、Sのようなサラウンド信号を含んでいるときは、より広がりのあるサラウンド効果が得られます。
- MPEG音声ファイルを再生しているときは、PCMフォーマットで出力されます。
- サラウンドバックの信号を含んでいるときでも、サラウンドバックチャンネルは表示されません。ドルビーデジタルEX、DTS-ESのようなサラウンドバックチャンネルを含むソースを再生しているときも、「3/2.1」と表示されます。

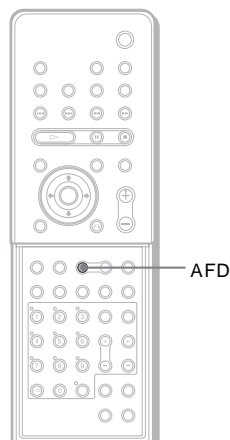
サラウンドを楽しむ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。
AFDボタンまたはモードボタンを押して、表示窓に希望するサウンドフィールドを表示させます。

ちょっと一言
テレビの音声や2チャンネルのソースを6本（または7本）のスピーカーから出力したいときは、「AUTO FORMAT DIRECT AUTO」と「2 CHANNEL STEREO」以外のサウンドフィールドを選んでください。

音声入力信号を自動的にデコードする

（オートフォーマットダイレクトオート）

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何の音場効果（残響音など）も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。
しかし、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合は、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

カバーをあけた状態

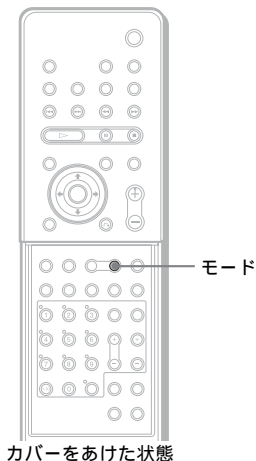
AFDボタンを押して、表示窓に「A.F.D. AUTO」を表示させる。

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT AUTO	A.F.D. AUTO

フロントスピーカーとサブウーファーだけを使う

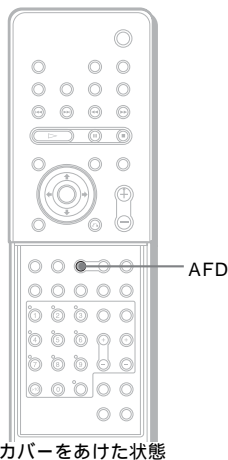
(2CHANNEL STEREO)

フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本から音を出します。標準的な2チャンネル（ステレオ）ソースはサウンドフィールドの回路を通さずに、マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
どんなソースもフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本で再生ができます。

カバーをあけた状態

モードボタンを押して、表示窓に「2CH STEREO」を表示させる。

サウンドフィールド	表示窓の表示
2CHANNEL STEREO	2CH STEREO

サウンドフィールドを選ぶ（AFDボタン）

カバーをあけた状態

AFDボタンを押して、表示窓に希望するサウンドフィールドを表示させる。

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC	DOLBY PL
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC II MOVIE	PLII MOVIE
AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC II MUSIC	PLII MUSIC
Neo:6 CINEMA	NEO:6 CIN
Neo:6 MUSIC	NEO:6 MUS

■ AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC
サラウンド効果を再現するために、2チャンネルの音声信号をドルビープロロジック処理をして5チャンネルに振り分けます。サラウンドチャンネルの音声信号はモノラルになります。

■ AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC II MOVIE/MUSIC

サラウンド効果を再現するために2チャンネルの音声信号を、ドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりをもったサラウンド効果を特別なサウンドを加えることなしに実現したものです。

■ Neo:6 CINEMA

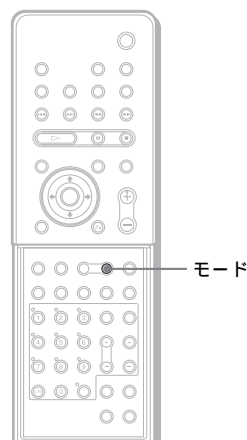
DTS Neo:6シネマモードデコーディングをして、サラウンドバックスピーカーを使って楽しむことができます。

■ Neo:6 MUSIC

DTS Neo:6ミュージックモードデコーディングをして、2チャンネルのCDなどのサウンドをサラウンドバックスピーカーを使って楽しむことができます。

ご注意

- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC、AUTO FORMAT DIRECT PRO LOGIC II MOVIE/MUSIC、Neo:6 CINEMA/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- DTS2チャンネルのソースを入力しているときは、Neo:6 CINEMA/MUSICは機能しません。
- MPEG-2 AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの設定は無効になります。
- DTS 24/96デコードには対応しておりません。DTS 24/96ディスク再生時は通常のディスクとして再生します。

サウンドフィールドを選ぶ（モードボタン）

カバーをあけた状態

モードボタンを繰り返し押して、表示窓に希望するサウンドフィールドを表示させる。

映画を楽しむ場合

サウンドフィールド	表示窓の表示
CINEMA STUDIO EX A	C. ST. EX A*
CINEMA STUDIO EX B	C. ST. EX B*
CINEMA STUDIO EX C	C. ST. EX C*

* DCSテクノロジーを使っています。

DCS（デジタルシネマサウンド）について

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの提携により、同社のスタジオの音響環境を計測し、ソニー独自の技術であるDSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを融合させて、「デジタルシネマサウンド」は開発されました。「デジタルシネマサウンド」はホームシアターで、映画館の理想的な音場効果を再現します

次のページへつづく

■ C.ST.EX A（CINEMA STUDIO EX A）

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「ケリー・グラント・シアター」の音響特性を再現します。標準的なモードで、どんな映画にも適しています。

■ C.ST.EX B（CINEMA STUDIO EX B）

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの映画制作スタジオ「キム・ノヴァク・シアター」の音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ C.ST.EX C（CINEMA STUDIO EX C）

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの スコアリングステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルやオーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

シネマスタジオEXについて

シネマスタジオEX（CINEMA STUDIO EX）は、ドルビーデジタルDVDなどのマルチ形式でエンコードされた映画ソフトを楽しむのに適したサウンドフィールドです。このモードはソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスタジオと同じ音響特性を再現します。
シネマスタジオEXは、以下の3つの要素から成り立っています。

- Virtual Multi Dimension
  実在する1組のサラウンドスピーカーに加えて、リスナーを取り巻くように5組の仮想スピーカーを再現します。
- Screen Depth Matching
  映画館では、スクリーンに映写されている映像の中から音が聞こえてくるように感じます。フロントスピーカーの音をスクリーンに移動させることによってご自分の部屋で同じような感覚を再現します。
- Cinema Studio Reverberation
  映画館に特有の残響効果を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3つの音響効果を実現する総合的なサウンドフィールドです。

ご注意

- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。

音楽またはその他のソースを楽しむ場合

サウンドフィールド	表示窓の表示
HALL	HALL
JAZZ CLUB	JAZZ CLUB
LIVE CONCERT	L. CONCERT
GAME	GAME
SPORTS	SPORTS
MONO MOVIE	MONO MOVIE

■ HALL

長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ CLUB

ジャズクラブの音響を再現します。

■ L. CONCERT（Live Concert）

300席あるライブコンサートの音響を再現します。

■ GAME

ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声が得られます。

■ SPORTS

アリーナやスタジアムの音響を再現します。

■ MONO MOVIE

古い映画などを再生するのに適したモノラル音声を再生します。

ヘッドホンを使う場合

サウンドフィールド	表示窓の表示
HEADPHONE 2CH	HP 2CH
HEADPHONE THEATER	HP THEATER

■ HEADPHONE 2CH

2チャンネルの音声信号をヘッドホンに出力します。2チャンネルのソースはサウンドフィールドをバイパスしてそのまま2チャンネルの信号を出力します。マルチチャンネルの信号は2チャンネルにダウンミックスして出力します。

■ HEADPHONE THEATER

ヘッドホンを使って劇場のような効果を得ることができます。ドルビーデジタルやDTSの5.1CH方式で記録されたディスクはより効果的にお楽しみいただけます。

サウンド効果を消すには

AFDボタンを繰り返し押して、表示窓に「A.F.D. AUTO」を表示させます。

ヘッドフォンが挿されているときには

AFDボタンまたはモードボタンを繰り返し押して、表示窓に「HP 2CH」を表示させます。

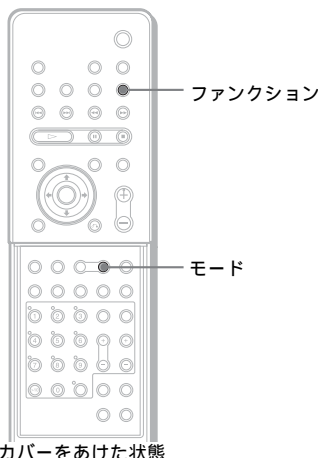
ご注意

- スーパーオーディオCD再生時または入力ストリームがdts2048のときにはこの機能は無効になります。
- スーパーオーディオCD再生時（ダイレクトストリームデジタルの場合）、サウンドフィールドは自動的に「AUTO FORMAT DIRECT AUTO」になります。
- DTS 24/96デコードには対応しておりません。DTS 24/96ディスク再生時は通常のディスクとして再生します。
- MPEG-2 AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの設定は無効になります。

ちょっと一言

- テレビの音声や2チャンネルのソースを6本（または7本）のスピーカーから出力したいときは、「AUTO FORMAT DIRECT AUTO」と「2 CHANNEL STEREO」以外のサウンドフィールドを選んでください。
- 各ファンクションで最後に選んだサウンドフィールドが本機にメモリーされています（サウンドフィールドリンク）。ファンクションを選ぶと、前回そのファンクションで選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。例えば、サウンドフィールドのHALLを選んでDVDを聞き、いったんファンクションを変えて、再びDVDに戻るとHALLのサウンドフィールドで聞くことができます。チューナーを聞くときは、登録した放送局ごとにサウンドフィールドをメモリーできます。
- ドルビーデジタルまたはドルビーサラウンドでエンコードされたソフトは、パッケージを見ればわかるようになっています。
  - ドルビーデジタルでエンコードされているソフトには DOLBY DIGITAL マークがついています。
  - DTS-ESでエンコードされているソフトにはDTS-ESマークがついています。
  - ドルビーサラウンドでエンコードされているソフトには DOLBY SURROUND PRO・LOGIC マークがついています。
  - DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフトにはDTSマークがついています。

テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ

テレビやビデオの音声を本機のすべてのスピーカーで楽しむことができます。
接続方法については「手順3：テレビやビデオを接続する」（27ページ）をご覧ください。

カバーをあけた状態

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、本体表示窓にテレビまたはビデオと接続した端子（「VIDEO」または「SAT」)を表示させる。

光デジタル音声は「SAT」でお楽しみいただけます。

2 モードボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを表示させる。

テレビやビデオの音声を6本（または7本）のスピーカーから出力したいときは、「AUTO FORMAT DIRECT AUTO」と「2CHANNEL STEREO」以外のサウンドフィールドを選んでください。

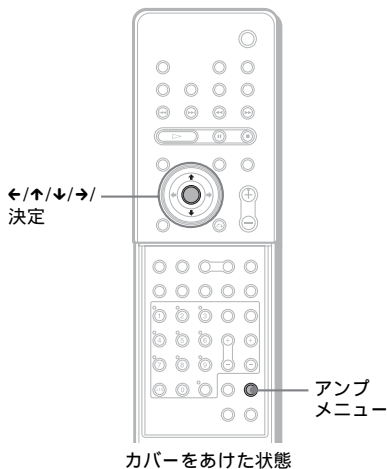
ご注意

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの設定は無効になります。

サラウンドバックのデコードモードを選ぶ

マルチチャンネルで入力されるソースを、サラウンドバックスピーカーを使った6.1チャンネルで再生するときのデコードモードを選ぶことができます。
ドルビーデジタルEX、DTS-ESマトリックス/ディスクリートなどの6.1チャンネルのソースを楽しむことができます。

ご注意
この機能は本機にサラウンドバックスピーカーを接続して（21ページ）、スピーカー設定の「サイズ」で「サラウンドバック」を「あり」に設定したとき（97ページ）のみ動作します。

カバーをあけた状態

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を使って表示窓に「CUSTOMIZE」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

カスタマイズモードになります。

3 ↑/↓を使って表示窓に「SB DEC」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を使って入力に合わせたデコードモードを選んで、決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。

初期設定は「SB MATRIX」です。

「SB MATRIX」を選んだとき

入力ストリームの種類[1]に関係なく、ドルビーデジタルEXまたはDTS-ESデコードを行います。

入力ストリーム	出力チャンネル	適用されるデコード
ドルビーデジタル5.1	6.1	ドルビーデジタルEXデコード
DTS5.1	6.1	DTSマトリックスデコード
ドルビーデジタルEX[2]	6.1	ドルビーデジタルEXデコード
DTS-ESマトリックス6.1[3]	6.1	DTSマトリックスデコード
DTS-ESディスクリート6.1[4]	6.1	DTSディスクリートデコード

「SB AUTO」を選んだとき

入力ストリームの種類[1]によって、入力ストリームに合ったデコードを行います。

入力ストリーム	出力チャンネル	適用されるデコード
ドルビーデジタル5.1	5.1	ー
DTS5.1	5.1	ー
ドルビーデジタルEX[2]	6.1	ドルビーデジタルEXデコード
DTS-ESマトリックス6.1[3]	6.1	DTSマトリックスデコード
DTS-ESディスクリート6.1[4]	6.1	DTSディスクリートデコード

「SB OFF」を選んだとき

サラウンドバックデコードは行われません。

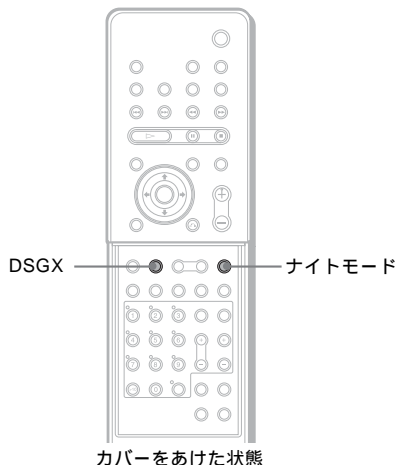
1) DVDなどのソースに記録されて情報です。
2) サラウンドEX情報を含んでいるドルビーデジタルDVDです。ドルビーコーポレーションのホームページなどで、サラウンドEX映画などの情報をご確認ください。
3) 5.1チャンネルサラウンド情報とサラウンドEX情報両方の情報を含んでいます。
4) 5.1チャンネルサラウンドと6.1チャンネルディスクリートサラウンド両方の情報を含んでいます。6.1チャンネルディスクリートサラウンド信号は、映画以外の特別な用途で使われています。

ご注意

- サラウンドバックデコードモードは、「AUTO FORMAT DIRECT AUTO」のサウンドフィールドを選んだときのみ、。選ぶことができます（65ページ）。他のサウンドフィールドを選んでいるときは、サラウンドバックデコードは、内部でバイパスされます。
- DVDのパッケージなどにドルビーデジタルEXのマークがある場合でも、ドルビーデジタルEXの情報を含んでいないように表示されることがあります。その場合は、「SB MATRIX」を選んでください。

サウンド効果を楽しむ

本機ではご自分の状況に応じて簡単に2種類のサウンド効果を楽しめます。

カバーをあけた状態

DSGXボタンまたはナイトモードボタンを押す。

サウンド効果が作動します。

■ ナイトモード

夜遅くに、音量を下げて映画を見るときでも、劇場のような音響効果や台詞を明瞭に聞き取れるようにします。

■ DSGX

低域の音量を増幅させます。

サウンド効果を消すには

ナイトモードボタンまたはDSGXボタンをもう一度押します。

次のページへつづく

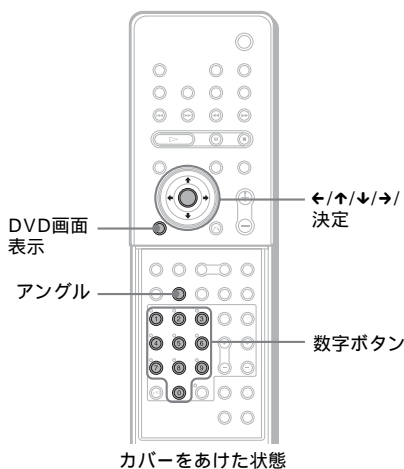
ご注意

- ナイトモード機能は入力ストリームがドルビーデジタルフォーマットのときのみ動作します。
- ヘッドホンを本機に接続すると、DSGX機能はオフになります。
- 2つの効果を同時に作動させることはできません。
- 入力ストリームによって、DSGX機能が動作しないこともあります。

アングルを切り換える

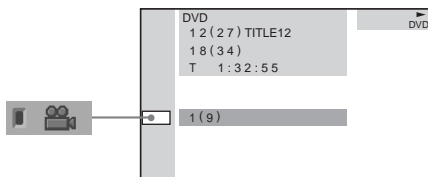
DVD

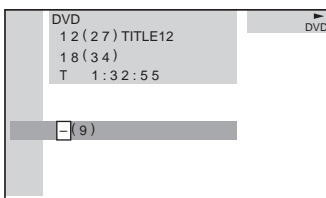
複数のアングルがディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。
例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、右の窓からの景色に切り換えて見ることができます。

カバーをあけた状態

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で「アングル」を選ぶ。

カッコ内の数字は、ディスクに記録されているアングルの総数です。他のアングルがディスクに記録されている場合は、アイコンが緑に点灯します。

3 決定ボタンまたは→を押す。

アングル番号が「–」に変わります。

4 ↑/↓ または数字ボタンでアングル番号を選び、決定ボタンを押す。

選んだアングルに切り換わります。

画面表示を消すには

DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意

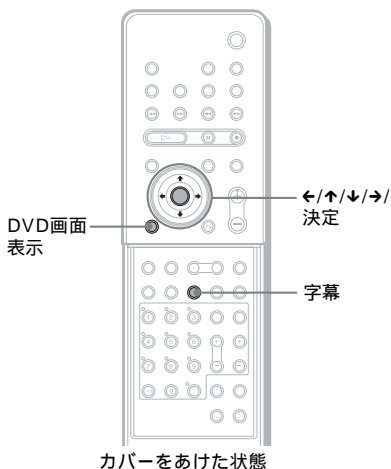
ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

ちょっと一言

アングルボタンで直接「アングル」を選ぶことができます。アングルボタンを繰り返し押して設定します。

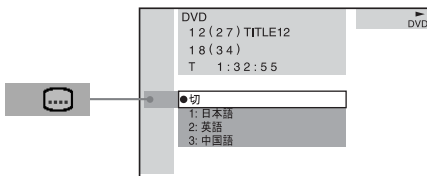
字幕を表示する

DVD

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えて、語学の学習に役立てたりできます。

1 再生中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓で「字幕」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

「字幕」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓で言語を選ぶ。

選べる言語はディスクによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは「言語コード一覧表」（121ページ）を参照してください。

4 決定ボタンを押す。

字幕設定を解除するには

手順3で「切」を選びます。

画面表示を消すには

DVD画面表示ボタンを押します。

ご注意

ディスクによっては複数の言語で字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

ちょっと一言

字幕ボタンで直接「字幕」を選ぶことができます。字幕ボタンを繰り返し押して設定します。

ディスクの再生を制限する

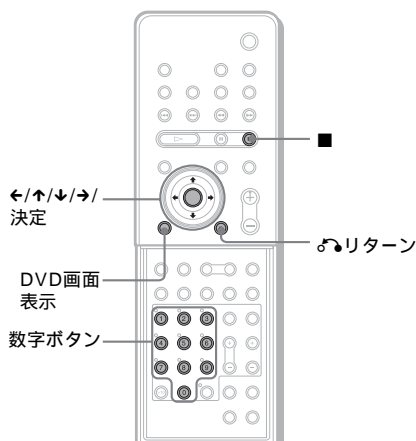
（カスタム視聴制限、視聴年齢制限）

本機には、ディスクの再生を制限する次の2種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴年齢制限
  視聴年齢制限つきDVDの再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴年齢制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。

カスタム視聴制限―設定する

登録した同じ暗証番号を使って、25枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。26枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

カバーをあけた状態

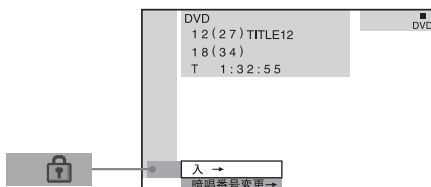
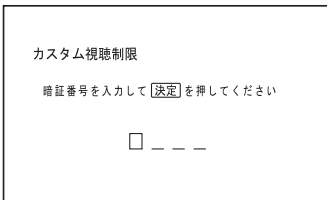
1 設定したいディスクを入れる。

ディスクを再生しているときは、■ を押して再生を止めます。

2 停止中にDVD画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓ で 「カスタム視聴制限」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

「カスタム視聴制限」が選ばれます。

4 ↑/↓ で「入 →」を選び、決定ボタンを押す。

■暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号確認の画面が出ます。

次のページへつづく

■暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。

カスタム視聴制限

暗証番号を入力して［決定］を押してください

□＿＿＿

5　数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

暗証番号を間違えたときは

決定ボタンを押す前に ← を押して、入力しなおします。

間違えたときは

リターンを押して、手順3から選びなおします。

画面表示を消すには

DVD画面表示ボタンを押します。

カスタム視聴制限を解除するには

1 手順4で「切 →」を選び、決定ボタンを押す。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更するには

1 手順4で「暗証番号変更 →」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号入力の画面が表示されます。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
3 数字ボタンで新しい4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。
4 確認のため、数字ボタンでもう一度暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

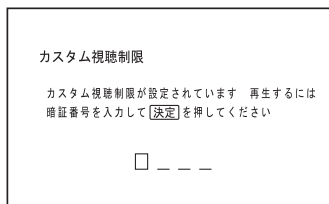
カスタム視聴制限―再生する

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。

カスタム視聴制限の画面が表示されます。

カスタム視聴制限

カスタム視聴制限が設定されています　再生するには
暗証番号を入力して[決定]を押してください

□＿＿＿

2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

再生できる状態になります。

ご注意

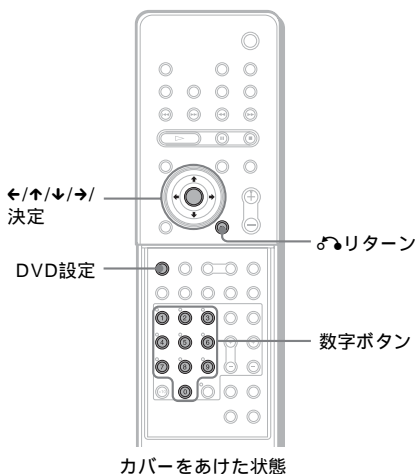
- スーパーオーディオCDで、レイヤーまたはエリアを切り換えた場合、カスタム視聴制限が設定されていると、暗証番号の入力画面になることがあります。
- ハイブリッドのスーパーオーディオCDでカスタム視聴制限の設定を行った場合は、現在のレイヤーにのみ設定が有効になります。

ちょっと一言

暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴年齢制限―設定する(DVDのみ)

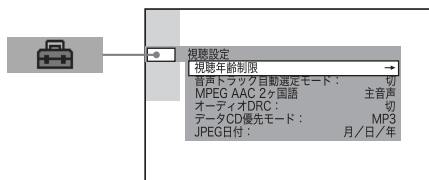
DVDの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。
制限されているシーンが再生されたとき、そのシーンをカットしたり、あらかじめ用意された別のシーンに差し替えて再生します。

カバーをあけた状態

1 停止中にDVD設定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

2 ↑/↓ で 「視聴設定」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

視聴設定画面が表示されます。

次のページへつづく

3 ↑/↓ で「視聴年齢制限 →」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

■暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。

数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。

4 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

視聴制限のレベル設定および、暗証番号の変更の画面が表示されます。

5 ↑/↓ で「使用する地域」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

「使用する地域」の選択項目が表示されます。

6 ↑/↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選び、決定ボタンを押す。

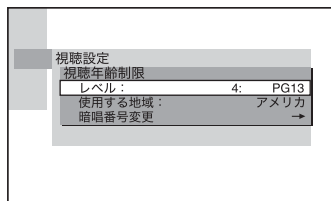
地域が選ばれます。

「その他 →」を選んだときは、80ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

7 ↑/↓ で「レベル」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

「レベル」の選択項目が表示されます。

8 ↑/↓ で制限するレベルを選び、決定ボタンを押す。

視聴年齢制限の設定が終了します。

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります

間違えたときは

リターンを押して1つ前の画面に戻り、選びなおします。

視聴設定画面を消すには

DVD設定ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除するときは

手順8で「レベル」を「切」にします。

暗証番号を変更するには

1 手順5で ↓ を使って「暗証番号変更 →」を選び、決定ボタンまたは➔を押す。
暗証番号入力の画面が出ます。

2 もう1度手順3を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴年齢制限—再生する

1 ディスクを入れて、▷ を押す。

視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。

再生が始まります。

ご注意

- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴年齢設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
  リジューム再生が解除されたら、通常のレベルに戻してください。

ちょっと一言

登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「視聴年齢制限—設定する」の手順1〜3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力して決定を押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を登録する案内が表示されます。
新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷ を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

地域コード

使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044
イギリス	2184
イタリア	2254
インド	2248
インドネシア	2238
オーストラリア	2047
オーストリア	2046
オランダ	2376
カナダ	2079
韓国	2304
シンガポール	2501
スイス	2086
スウェーデン	2499
スペイン	2149
タイ	2528
台湾	2543
中国	2092
チリ	2090
デンマーク	2115
ドイツ	2109
日本	2276
ニュージーランド	2390
ノルウェー	2379
パキスタン	2427
フィリピン	2424
フィンランド	2165
ブラジル	2070
フランス	2174
ベルギー	2057
ポルトガル	2436
香港	2219
マレーシア	2363
メキシコ	2362
ロシア	2489

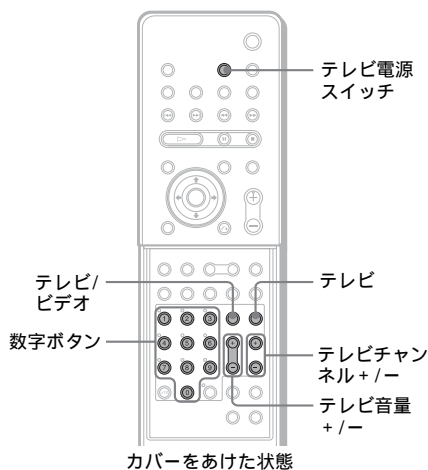
付属のリモコンでテレビを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビの音量や電源などを操作できます。

ご注意

- メーカー番号を入力すると、それまでのメーカー番号は消えてしまいます。
- リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に001（ソニー）に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせ直してください。

リモコンで各社のテレビを操作する

カバーをあけた状態

リモコンのテレビ電源スイッチを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（3桁）を続けて入力し、その後、テレビ電源スイッチをはなす。

メーカー番号が設定されると、テレビボタンがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとテレビボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

メーカー番号

メーカー番号が2つ以上あるときは、順に試してテレビが操作できるものをお選びください。

テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー	001
アイワ	001、007、008
三洋電機	009、010、011
シャープ	020、039、040
東芝	039、046、047、048
日本ビクター	018、019
パイオニア	029、030、031、046、049
日立製作所	002、013、014、015、020、021、027
松下電器	049、050、051
三菱電機	002、021、022
DAEWOO	002、003、004、005、006、027
FISHER	009、010
GRUNDIG	038、052、053
ITT/NOKIA	025、026
LG/GOLDSTAR	002、020、027、028、038
LOEWE	027、028、038
MAGNAVOX	002、020、027、034
NEC	002、020、023、024、048
PHILIPS	013、027、034

次のページへつづく

テレビのメーカー	メーカー番号
RCA/PROSCAN	002、012、032、033
SAMSUNG	002、013、020、027、028、036、037、038
TELEFUNKEN	035、041、042、043、044、045
THOMSON	035、041、043、045
ZENITH	016、017

テレビの操作をする

以下のボタンでテレビの操作ができるようになります。

押すボタン	できること
テレビ電源スイッチ	テレビの電源を入/切する。
テレビ/ビデオ	テレビの入力を切り換える。
テレビ音量+/ー	テレビの音量を調節します。
テレビチャンネル+/ー	テレビのチャンネルを選びます。

数字ボタンを使う

リモコンをテレビモードにすると、数字ボタンでテレビを操作することができます。

テレビボタンを押す。

テレビボタンが赤く点灯し、リモコンがテレビモードになります。数字ボタンでテレビのチャンネルを選ぶことができます。
10以上のチャンネルを選ぶ場合は、>10ボタンを使います。
もう一度テレビボタンを押すと、テレビモードは解除されます。

ご注意

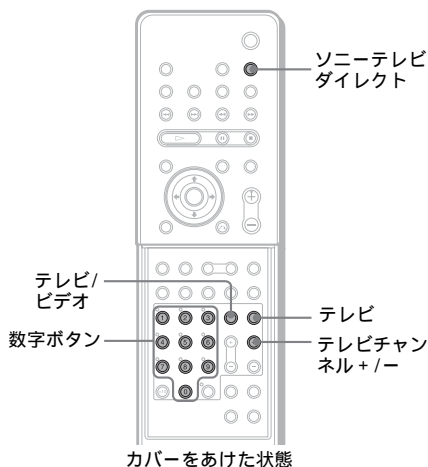
- テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- リモコンを10秒以上操作しないと、テレビボタンは消灯します。

ちょっと一言

テレビのメーカーによっては以下の操作が可能なものもあります。
2桁の数字を入力するときは、>10を押したあとに数字を入力します。たとえば、25と入力したいときは>10、2、5と入力します。

ソニーテレビダイレクト機能を使う

ソニー製テレビをお使いの場合、1．テレビの電源を入れる、2．テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換える、3．本機の電源を入れる、の操作を、ワンタッチで行うことができます。

カバーをあけた状態

準備をする

テレビの入力（本機をつないだ入力）を登録します。

テレビ/ビデオボタンを押しながら、数字ボタンを使ってテレビの入力を選ぶ。

下記の表から、本機をつないである入力を選びます。
設定されると、テレビボタンがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとテレビボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

テレビ/ビデオボタンを押しながら ➡	押す数字ボタン	テレビの入力
	0	選びません（初期設定）
	1	ビデオ1
	2	ビデオ2
	3	ビデオ3
	4	ビデオ4
	5	ビデオ5
	6	ビデオ6
	7	コンポーネントビデオ1
	8	コンポーネントビデオ2

操作をする

テレビの入力（本機をつないだ入力）を登録します。

テレビと本機にリモコンを向けて、ソニーテレビダイレクトボタンを押す。

リモコンから信号を送信している間は、テレビボタンが点滅します。

機能しない場合は、下記のようにリモコンから信号を送信する時間を変えてみてください。

信号の送信時間を変える

テレビチャンネル＋ボタンを押しながら、数字ボタンを使って、送信時間を選びます。

下記の表から、送信時間を選びます。
設定されると、テレビボタンがゆっくり2度点滅します。
設定に失敗するとテレビボタンがすばやく5度点滅します。その場合はもう一度設定をやり直してください。

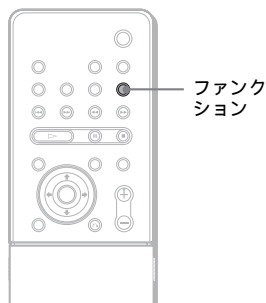
次のページへつづく

テレビチャンネル＋ボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	送信時間
		1	0.5（初期設定）
		2	1
		3	1.5
		4	2
		5	2.5
		6	3
		7	3.5
		8	4

ご注意

- この機能は、ソニー製テレビのみ機能します。（ソニー製テレビでも機能しないモデルもあります。）
- テレビと本機が離れていると、機能しない場合があります。その場合は、テレビと本機を近づけて設置してください。
- テレビボタン点滅中（信号の送信中）は、リモコンをテレビ、本機に向けたままにしておいてください。

ビデオや衛星放送チューナーなどを使う

VIDEOまたはSAT端子を使って本機と接続した機器（27ページ）を再生することができます。
お使いになる機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に再生したい機器を接続した端子（「VIDEO 」または「SAT」）を表示させる。

ファンクションボタンを押すごとに、
FM → AM → VIDEO → SAT → DVD → FM …と切り換わります。
SATのAUDIO IN端子を使った接続（アナログ接続）とOPTICAL DIGITAL IN端子を使った接続（デジタル接続）を同時にしているときに「SAT」に切り換えると、自動的にOPTICAL DIGITAL IN端子の入力を選択します。

ご注意

ビデオやBSデジタル/デジタルCSチューナーなどの外部機器を付属のリモコンで操作することはできません。

2ヶ国語放送を楽しむ

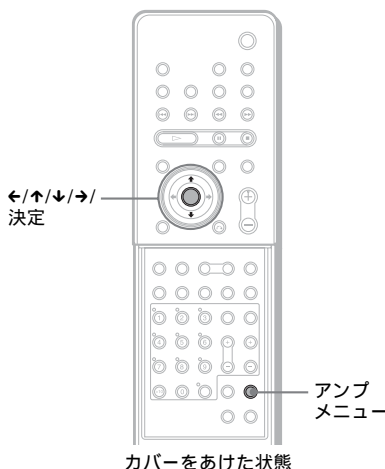
BSデジタル放送などのMPEG-2 AACの2重音声を楽しむことができます。

ご注意
BSデジタル放送などのMPEG2 AAC二重音声を聞くには、BSデジタルチューナーと本機をデジタル接続し（27ページ）、BSデジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。

カバーをあけた状態

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を使って表示窓に「CUSTOMIZE」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

カスタマイズモードになります。

3 ↑/↓を使って表示窓に「DUAL MONO」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を使って表示窓にお好みの設定を表示させる。

■ MAIN（主音声）
主音声のみを再生します。

■ SUB（副音声）
副音声のみを再生します。

■ MAIN+SUB（主＋副）
主音声と副音声が合成された音声を再生します。

■ MAIN/SUB（主/副）
左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

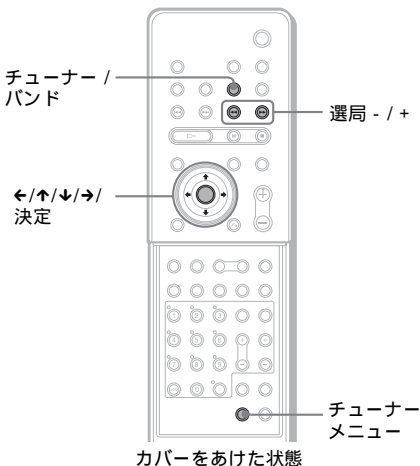
5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ラジオを楽しむ

ラジオ局を登録する（プリセット）

ラジオ局を受信して、登録することができます。FM局を20局とAM局を10局、合わせて30局登録できます。
受信を始める前に、音量を最小にしてください。

カバーをあけた状態

1　チューナー／バンドボタンを繰り返し押して、FMかAMを選ぶ。

チューナー／バンドボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。

2　選局+ボタンまたは選局－ボタンを押しつづけ、選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、ラジオ局を受信すると、選局が自動的に止まります。

表示窓には、「TUNED」とステレオ放送の場合は「ST」が表示されます。

FM 7　84.0 MHz

3　チューナーメニューボタンを押す。

4　←/↑/↓/→を使って表示窓に「MEMORY ?」を表示させる。

5　決定ボタンを押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。

MEM FM 4

6　←/↑/↓/→を使ってプリセット番号を選ぶ。

MEM FM 7

7　決定ボタンを押す。

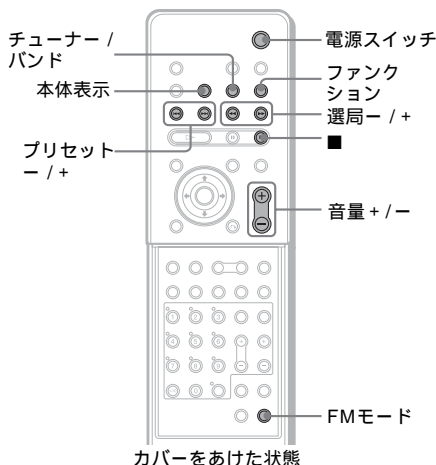
ラジオ局が登録されます。

8　手順1～7を繰り返して、他のラジオ局を登録する。

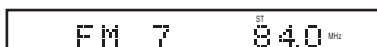
プリセット番号を変えるには

手順1から操作をします。

ラジオを聞く

前ページの「ラジオ局を登録する（プリセット）」でラジオ局を登録しておいてください。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させる。

最後に受信したラジオ局が受信されます。

FM 7 84.0 MHz

2 プリセット＋ボタンまたはプリセットーボタンを繰り返し押して、登録したラジオ局の中から聞きたいラジオ局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。
チューナー /バンドボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。

3 音量＋/ーボタンで音量を調節する。

ラジオを消す

電源スイッチを押します。

登録していないラジオ局を聞く

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋またはーを繰り返し押します。
自動受信は、リモコンの選局＋またはーを押し続けます。自動受信を止めるときは選局＋またはーを押します。

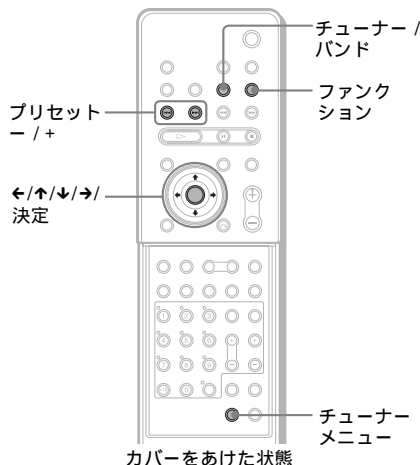
ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、リモコンのFMモードボタンを押して、表示窓に「MONO」を表示させます。モノラルになりますが聞きやすくなります。もう一度押すとステレオに戻ります。
- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きを受信状態の良い方向に変えてください。

周波数やサウンドフィールドを確認する

本体表示ボタンを繰り返し押します。
ボタンを押すごとに表示が、
ラジオ局名* → 周波数 → サウンドフィールド → ラジオ局名* …と切り換わります。
* プリセットしたラジオ局の名前を付けてあるときに表示されます。

登録したラジオ局に名前を付ける

登録した放送局に8文字まで名前を付けることができます。これらの名前は、ラジオ局が選択されたときに本機の表示窓に表示されます（「XYZ」など）。

1 ファンクションボタンを繰り返し押して、表示窓に「FM」または「AM」を表示させる。

チューナー /バンドボタンを押すたびに、FMとAMが切り換わります。
最後に受信したラジオ局が受信されます。
ファンクションボタンを押すごとに、
FM → AM → VIDEO → SAT →
DVD → FM …と切り換わります。

2 プリセット＋ボタンまたはプリセットーボタンを繰り返し押して、名前を付けたいラジオ局を受信する。

3 チューナーメニューボタンを押す。

4 ←/→を使って表示窓に「NAME IN ?」を表示させる。

5 決定ボタンを押す。

6 ←/↑/↓/→を使って名前を付ける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。

間違えて入力してしまったら

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選びます。入力できる文字はアルファベットの大文字、数字、記号です。

7 決定ボタンを押す。

放送局の名前が登録されます。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。
時間は10分間隔で設定することができます。

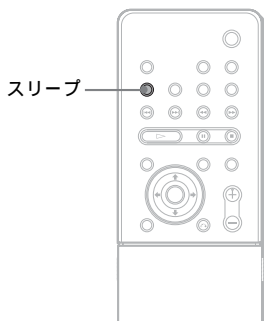
スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、設定時間が換わります。
AUTO（オート）→ 90MIN（90分）→ 80MIN（80分）→ 70MIN（70分）→ 60MIN（60分）… 10MIN（10分）→ SLEEP OFF（オフ）→ AUTO（オート）…

AUTO（オート）を選んだ場合

現在再生中のディスクが終了すると、自動的に電源をオフにします（240分までの長さのディスクに対応しています）。また手動で再生を止めても、自動的に電源がオフになります。
オート機能を設定してからファンクションを切り換えると、オート機能はキャンセルされます。

設定時間を確認する

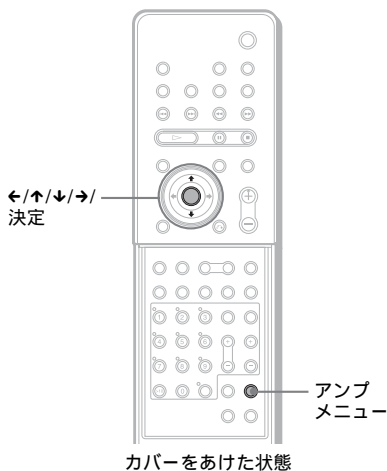
スリープボタンを一度押します。
AUTOを選んでいるときは、設定時間の確認はできません。

経過時間を変える

スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更します。

スリープタイマー機能を解除する

スリープボタンを繰り返し押して、表示窓に「SLEEP OFF」を表示させます。

本体表示の明るさを調節する

表示窓の明るさを調節することができます。

カバーをあけた状態

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を使って表示窓に「CUSTOMIZE」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

カスタマイズモードになります。

3 ↑/↓を使って表示窓に「DIMMER」を表示させてから決定ボタンまたは→を押す。

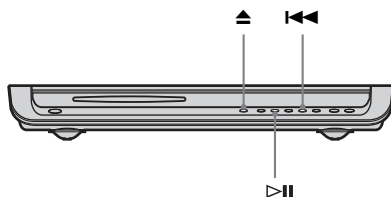
4 ↑/↓を使って表示窓の明るさを選ぶ。

明るさは2段階に調整できます。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

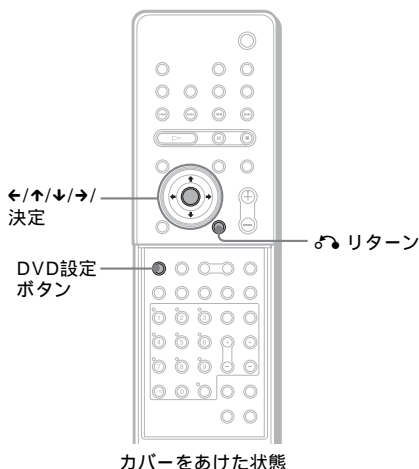
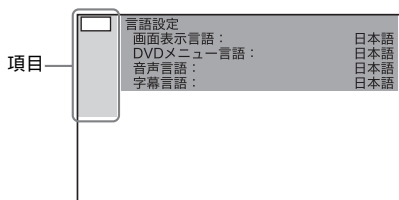
スピーカー設定やラジオのプリセットなどの設定項目を、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

⏮ボタン、▷IIボタンを押しながら≜ボタンを押す。

表示窓に「COLD RESET」が表示され、設定項目がお買い上げ時の設定にもどります。

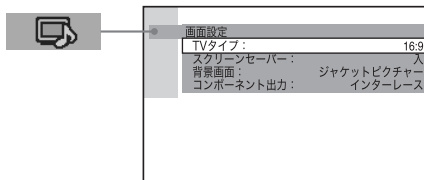
設定画面を使う

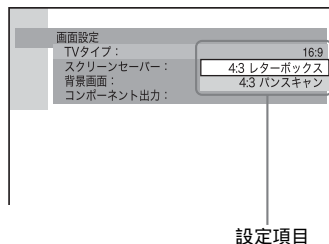
設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は122ページをご覧ください。各項目について詳しくは93〜104ページをご覧ください。

設定画面の使いかた

カバーをあけた状態

1 停止中にDVD設定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

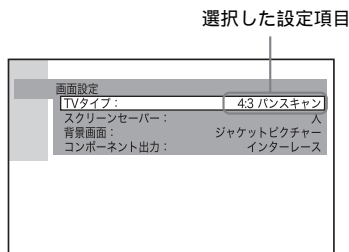
2 ↑/↓ で「言語設定」「画面設定」「視聴設定」「スピーカー設定」「設定」の中から、設定したい項目を選び、決定ボタンまたは→を押す。

選択した項目の画面が表示されます。
例)「画面設定」

3 ↑/↓で項目を選び、決定ボタンまたは→を押す。

項目の設定項目が一覧表示されます。
例)「TVタイプ」の設定項目

設定項目

←またはリターンボタンを押すと一つ前の画面戻ります。

4 ↑/↓ で設定項目を選び、決定ボタンを押す。

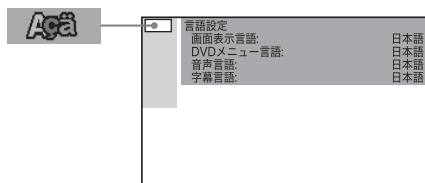
設定項目が選ばれ、設定が終了します。
例）「4:3 パンスキャン」

画面表示を消すには

DVD設定ボタンを押します。

表示言語や音声言語の設定

（言語設定）

言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で「言語設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（92ページ）をご覧ください。

■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ DVDメニュー言語（DVDのみ）

DVDメニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ 音声言語（DVDのみ）

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ 字幕言語（DVDのみ）

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

ご注意

選んだ言語がディスクに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます（「画面表示言語」を除く）。

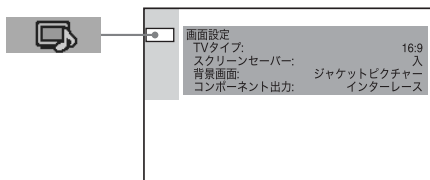
ちょっと一言

「DVDメニュー言語」「音声言語」「字幕言語」で「その他 →」を選んだときは、言語コード一覧表（121ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

画像に関する設定

（画面設定）

接続するテレビに合わせて設定できます。お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

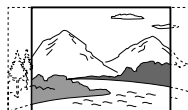
設定画面で「画面設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（92ページ）をご覧ください。

■ TVタイプ（DVDのみ）

接続するテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは従来の4：3画面テレビ）を設定します。

16:9	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
4:3 レターボックス	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
4:3 パンスキャン	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。

16:9

4:3 レターボックス

4:3 パンスキャン

ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分たつか、CD、スーパーオーディオCD、MP3、JPEG（スライドショーは除く）を15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入	スクリーンセーバーを使います。
切	スクリーンセーバーを使いません。

■ 背景画面

停止中やCD、スーパーオーディオCD、MP3再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

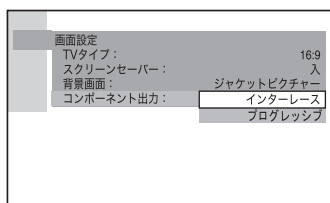
ジャケットピクチャー	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にします。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス1」の画像が表示されます。
グラフィックス1～5	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にします。
青	画面の背景色を「青」にします。
黒	画面の背景色を「黒」にします。

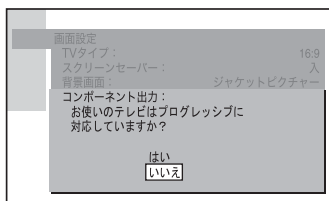
■ **コンポーネント出力**

本機のCOMPONENT VIDEO OUTのD2 VIDEO端子から出力される映像信号の方式を選びます。映像信号の方式については、「用語解説」（111、114ページ）をご覧ください。

インターレース	本機を通常のテレビ（インターレース方式）につないでいるとき。
プログレッシブ	本機をプログレッシブ（525p）方式に対応したテレビにつないでいるとき。

「プログレッシブ」に設定するには

1 ↑/↓ で「画面設定」から、「コンポーネント出力」を選び、決定ボタンを押す。

2 ↑/↓ で「プログレッシブ」を選び、決定ボタンを押す。

確認の画面が表示されます。

3 ↑/↓ で「はい」を選び、決定ボタンを押す。

出力信号がプログレッシブに設定されます。

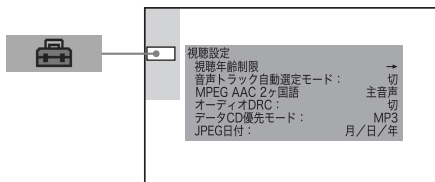
ご注意

- コンポーネント映像の信号に対応した入力端子を持つテレビモニターをご使用になる場合は、D端子ケーブル、またはD端子付コンポーネントケーブルを使って本機と接続してから、上記の手順で「プログレッシブ」に設定してください。
- 「画面設定」で「プログレッシブ」が選択されているときは、MONITOR OUTのVIDEO端子、S VIDEO端子からは出力されません。
- プログレッシブ（525p）方式に対応していないテレビとつないでいるときに、設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選ぶと画像が乱れます。その場合は、インターレースに戻してください（29ページ）。
- 「インターレース」に設定する場合は、確認画面は表示されません。

視聴に関する設定

（視聴設定）

視聴年齢制限などを設定します。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で「視聴設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（92ページ）をご覧ください。

■ 視聴年齢制限 →

暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。詳しくは「ディスクの再生を制限する（カスタム視聴制限、視聴年齢制限）」（75ページ）をご覧ください。

■ 音声トラック自動選定モード

複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル）を優先して再生できます。

切	優先しません。
入	優先します。

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（93ページ）より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタルの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

■ MPEG AAC 2ヶ国語

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くときに再生モードを設定します。

主音声	主音声のみを再生します。
副音声	副音声のみを再生します。
主/副	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
主＋副	主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ちょっと一言

BSデジタル放送のMPEG2 AAC二重音声を聞くには、BSデジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。

■ オーディオDRC*

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。

* Dynamic Range Compressionの略称です。

切	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
入	レコーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

ご注意

オーディオDRCはソースがドルビーデジタルのときのみ有効です。

■ **データCD優先モード（MP3、JPEGのみ）**

MP3ファイルとJPEGファイルが混在するデータCD（CD-ROM/CD-R/CD-RW）ディスクを再生する際、どちらのファイルを優先して認識するか設定します。

MP3	MP3ファイルが存在する場合「MP3ディスク」として認識します。MP3ファイルが存在せず、JPEGファイルが存在する場合は「JPEGディスク」として認識します。
JPEG	JPEGファイルが存在する場合「JPEGディスク」として認識します。JPEGファイルが存在せず、MP3ファイルが存在する場合は「MP3ディスク」として認識します。

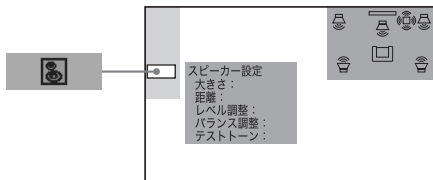
■ **JPEG日付**

JPEG日付の表示順序を切り換えます。お買い上げ時の設定は「月/日/年」です。

スピーカーの設定

（スピーカー設定）

サラウンドを十分に楽しむために、スピーカーの大きさや、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

設定画面で「スピーカー設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（92ページ）をご覧ください。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています。

設定を変更している途中で、お買い上げ時の設定に戻すには

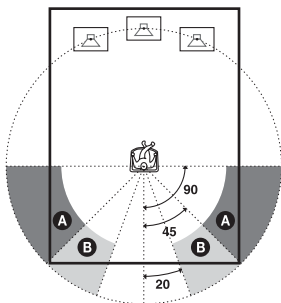
項目を選んでクリアーボタンを押します。

■ **大きさ**

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを接続しない場合や、サラウンドスピーカーの位置を変えた場合は、「センター」や「サラウンド」の位置や高さを設定し直します。フロントスピーカーとサブウーファーの設定は変えられません。サラウンドバックスピーカーを接続する場合は、「サラウンドバック」を「あり」に設定します。

設定と調整をする

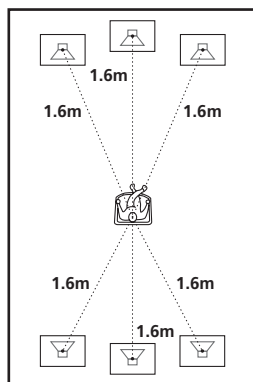
次のページへつづく

位置の目安

フロント	<u>あり</u>
センター	<u>あり</u>：通常はこの設定にします。 なし：センタースピーカーを接続しない場合は「なし」にします。
サラウンド	<u>後</u>：サラウンドスピーカーを図の🅑の位置に設置する場合。 横：サラウンドスピーカーを図の🅐の位置に設置する場合。 なし：サラウンドスピーカーを接続しない場合は「なし」にします。
サラウンドバック (「サラウンド」を「なし」以外に設定したときのみ)	<u>なし</u>：サラウンドバックスピーカーを接続しない場合は「なし」にします。 あり：サラウンドバックスピーカーを接続する場合は「あり」にします。
サブウーファー	<u>あり</u>

ご注意

- 項目を選んだときは、音が一瞬途切れます。
- 他のスピーカーの設定によっては、サブウーファーから大音量が出ることがあります。

■ **距離**

リスニングポジションから各スピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

スピーカーの位置を変えた場合は、そのたびに設定しなおします。下線の付いている数値はお買い上げ時の設定値です。

フロント <u>1.6m</u>*	1m〜7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
センター <u>1.6m</u>* (「センター」を「あり」に設定したときのみ)	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
サラウンド <u>1.6m</u>* (「サラウンド」を「なし」以外に設定したときのみ)	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに4.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
サラウンドバック <u>1.6m</u>* (「サラウンドバック」を「あり」に設定したときのみ)	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに4.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

* クイック設定（37ページ）を行うと、自動的に設定されます。

ご注意

- 項目を選んだときは、音が一瞬途切れます。
- 両方のフロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーより離れた位置に置かないでください。
- 距離の設定は入力信号によって無効になることもあります。

■ レベル調整

各スピーカーのレベルは次のように調整します。調整するときは「テストトーン」を「入」にしておきます。

センター 0dB*（「センター」を「あり」に設定したときのみ）	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでセンタースピーカーのレベルを調整します。
サラウンドL 0dB* サラウンドR 0dB*（「サラウンド」を「なし」以外に設定したときのみ）*	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでサラウンドスピーカーのレベルを調整します。
サラウンドバック0dB（「サラウンドバック」を「あり」に設定したときのみ）	－10dB～+10dBの範囲で、1dB刻みでサラウンドバックスピーカーのレベルを調整します。
サブウーファー +4dB*	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでサブウーファーのレベルを調整します。

* クイック設定（37ページ）を行うと、自動的に設定されます。

■ バランス調整

各スピーカーのバランスは次のように調整します。「テストトーン」を「入」にしておくと、調整するときに便利です。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

フロント（中央）	フロントスピーカーの左と右のバランスを調節します。センターの位置は「- - -」と表示されます。（フロントスピーカーの中心から左右6段階に調節できます。）

すべてのスピーカーの音量を一度に変える

本体のVOLUME＋/－ボタンまたはリモコンの音量ボタンで調整します。

■ テストトーン

バランス調整やレベル調整をするために、各スピーカーからテストトーンを聞くことができます。お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

切	テストトーンは出ません。
入	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。バランス、またはレベルを調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

テストトーンでスピーカーのバランスとレベルを調節する

1 停止中に、DVD設定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

2 ↑/↓を繰り返し押して「スピーカー設定」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「テストトーン」を選び、決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して「テストトーン」の「入」を選び、決定ボタンを押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

5 リスニングポジションから操作して、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように、←/↑/↓/→で「バランス調整」および「レベル調整」の設定を調節する。

バランス調整している間は、左右のスピーカーから同時にテストトーンが聞こえます。
レベル調整している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

6 調節が終わったら、決定ボタンを押す。

7 ↑/↓を繰り返し押して「テストトーン」を選び、決定ボタンを押す。

8 ↑/↓を繰り返し押して「テストトーン」の「切」を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

- バランスまたはレベル調整をした後、音が一瞬途切れます。
- サラウンドバックスピーカーは、接続しているオーディオアンプなどでも音量を調節することができます。

ちょっと一言

音を出さないでバランスおよびレベルの設定を調節する場合、手順3で「バランス調整」および「レベル調整」を選び、決定ボタンを押します。↑/↓でバランスおよびレベルを調節し、決定ボタンを押します。

本体の表示窓を使ってスピーカー設定をする

本体の表示窓を使ってスピーカー設定をすることもできます。

アンプメニューリスト

SP SETUP

- CENTER SP
  - CENTER Y
  - CENTER N
- SURR SP
  - SURR Y
  - SURR N
- SURR B SP[1]
  - SURR B N
  - SURR B Y
- F DIST — 1.0 m - 7.0 m
- CEN DIST[2] — 1.0 m - 7.0 m
- SURR DIST[2] – 1.0 m - 7.0 m
- SB DIST[2] — 1.0 m - 7.0 m
- SP POS[2]
  - SP BEHIND
  - SP SIDE

LEVEL

- TESTTONE
  - T.TONE OFF
  - T.TONE ON
- F BALANCE – 左右6段階
- CEN LEVEL[2] - –6 dB - +6 dB
- SL LEVEL[2] — –6 dB - +6 dB
- SR LEVEL[2] — –6 dB - +6 dB
- SB LEVEL[2] — –10 dB - +10 dB
- SW LEVEL — –6 dB - +6 dB
- AUDIO DRC
  - DRC OFF
  - DRC ON

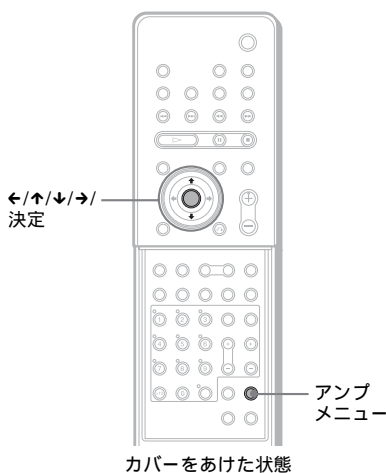
1)「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」に設定したときのみ。
2)「SP SETUP」で、対応するスピーカーの設定を「Y」(あり)に設定したときのみ。

CUSTOMIZE

1)「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」に設定したときのみ。
2)「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」、「SURR B SP」を「SURR B Y」に設定したときのみ。

カバーをあけた状態

1 アンプメニューボタンを押す。

次のページへつづく

2 ↑/↓を使って表示窓に設定したい項目を表示させる。

■ SP SETUP
大きさ、距離、位置を設定します。

■ LEVEL
レベルとバランスを設定したり、テストトーンのオン/オフをします。

3 決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を使って設定したい項目を選んで、決定ボタンまたは→を押す。

↑/↓を使って設定し、決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押します。
以下の項目を設定できます。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています

■ SP SETUP

CENTER SP（センタースピーカー）	CENTER Y（あり）：センタースピーカーを使用するとき CENTER N（なし）：センタースピーカーを使用しないとき
SURR SP（サラウンドスピーカー）	SURR Y（あり）：サラウンドスピーカーを使用するとき SURR N（なし）：サラウンドスピーカーを使用しないとき
SURR B SP[1]（サラウンドバックスピーカー）	SURR B N（なし）：サラウンドバックスピーカーを使用しないとき SURR B Y（あり）：サラウンドバックスピーカーを使用するとき
F DIST（フロントスピーカーの距離） 1.6m[2]	1m〜7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
CEN DIST[3]（センタースピーカーの距離） 1.6m[2]	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
SURR DIST[3]（サラウンドスピーカーの距離） 1.6m[2]	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに4.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
SB DIST[3]（サラウンドバックスピーカーの距離） 1.6m[2]	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに4.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
SP POS[3]（サラウンドスピーカーの位置）	SP BEHIND（後）：サラウンドスピーカーがリスニングポジションの後方にあるとき SP SIDE（横）：サラウンドスピーカーがリスニングポジションの横にあるとき

1) 「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」に設定したときのみ。
2) クイック設定（37ページ）を行うと自動的に設定されます。
3) 「SP SETUP」で、対応するスピーカーの設定を「Y」（あり）に設定したときのみ。

■ LEVEL

TEST TONE（テストトーン）	T.TONE OFF（切）：テストトーンは出ません。 T.TONE ON（入）：各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。 バランス、またはレベルを調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

F BALANCE（フロントスピーカーのバランス） 0	フロントスピーカーの左と右のバランスを調節します。（フロントスピーカーの中心から左右6段階に調節できます。）
CEN LEVEL[2]（センタースピーカーのレベル） 0[1]	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでセンタースピーカーのレベルを調整します。
SL LEVEL[2]（サラウンド左スピーカーのレベル） 0[1]	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでサラウンド左スピーカーのレベルを調整します。
SR LEVEL[2]（サラウンド右スピーカーのレベル） 0[1]	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでサラウンド右スピーカーのレベルを調整します。
SB LEVEL[2]（サラウンドバックスピーカーのレベル） 0[1]	－10dB～+10dBの範囲で、1dB刻みでサラウンドバックスピーカーのレベルを調整します。
SW LEVEL（サブウーファーのレベル） +4[1]	－6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みでサブウーファーのレベルを調整します。
AUDIO DRC（ダイナミックレンジの圧縮）	DRC OFF（切）：ダイナミックレンジの圧縮はありません。 DRC ON（入）：レコーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

1) クイック設定（37ページ）を行うと自動的に設定されます。
2)「SP SETUP」で、対応するスピーカーの設定を「Y」（あり）に設定したときのみ。

■ CUSTOMIZE

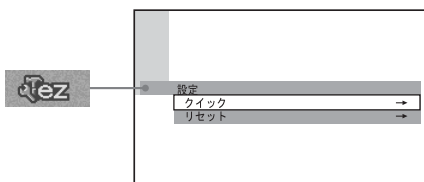
DUAL MONO（デュアルモノ）	MAIN SUB MAIN+SUB MAIN/SUB 詳しくは「2ヶ国語放送を楽しむ」（85ページ）をご覧ください。
SL SR REV[1]（サラウンドスピーカー（L）の位置の反転）	OFF ON 詳しくは「サラウンドスピーカー（L）（左）を（右）側に置くには」（31ページ）をご覧ください。
SB DEC[2]（サラウンドバックデコード）	SB MATRIX SB AUTO SB OFF 詳しくは「サラウンドバックのデコードモードを選ぶ」（70ページ）をご覧ください。
DIMMER（本体表示の明るさ）	DIM OFF DIM ON 詳しくは「本体表示の明るさを調節する」（90ページ）をご覧ください。

1)「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」に設定したときのみ。
2)「SP SETUP」で、「SURR SP」を「SURR Y」、「SURR B SP」を「SURR B Y」に設定したときのみ。

数秒間何もボタンを押さないとアンプメニューは終了します。

クイック設定とリセット

（設定）

設定画面で「視聴設定」を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（92ページ）をご覧ください。

■ クイック

クイック設定をします。
通常、初めて本機の電源を入れたときや、リセットしたあとに電源を入れたときは、画面にクイック設定を行うかどうかのメッセージが表示されますので、画面にしたがってクイック設定をします。
クイック設定をキャンセルした場合や、もう一度クイック設定をする場合は、この画面からクイック設定をします。
クイック設定の操作については、「手順6：クイック設定をする」（37ページ）をご覧ください。

ご注意

クイック設定をすると、以下の項目が設定されます。
- 「言語設定」の「画面表示言語」、「DVDメニュー言語」、「字幕言語」の設定
- 「スピーカー設定」の「距離」、「レベル」の設定
- 「画面設定」の「TVタイプ」の設定

■ リセット

視聴年齢制限を除くすべての設定画面項目をお買い上げ時の設定に戻すことができます。
「リセット」を選んでから決定ボタンを押して、「はい」を選びます。（リセットが完了するまで数秒かかります。）
リセット中はリモコンの電源ボタンや本体のI/⏻（電源）スイッチを押して電源を切らないでください。

ご注意

- 本機をリセットすると、視聴年齢制限を除くすべての設定画面項目をお買い上げ時の設定に戻ります。
- リセットをしたあとに本機の電源を入れると、メッセージが画面に表示されます。決定ボタンを押すと、クイック設定をする画面が表示されますので、画面にしたがってクイック設定をします（37ページ）。キャンセルするときは、クリアーボタンを押します。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
サラウンドスピーカ（L）（SA-TS22W）の修理の際は、本体（HCD-SR4W）と赤外線発光ユニットも合わせてお持ちください。修理が必要なロケーションを判断するためです。

DVD、ビデオCD再生操作のご注意
DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに動作しない場合があります。ディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

電源

電源が入らない。
→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

自動的に電源が切れSTANDBY（スタンバイ）ランプが点灯している。
→ 電源コードをコンセントから抜いて以下の項目を確認する。
- コードがショートしていないか？
- スピーカーは正しく設置されているか？
- 本体底部の通気孔がふさがっていないか？
- サブウーファーは正しく接続されているか？

上記の項目を点検し、もう一度電源コードをつなぎ電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

POWER ON/LINEランプが点灯しない。
- スピーカーコードがショートしている。サラウンドスピーカー（L）の電源コードを抜いて、再度コンセントに差して、電源を入れる。

映像

映像が出ない。
→ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
→ ビデオ接続コードが断線している。
→ テレビの入力端子を間違えている（27ページ）。
→ テレビの入力切り換えで本機の映像が映るようにしていない。
→ プログレッシブ（525p）方式に対応していないテレビとつないでいるときに、設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選ぶと画像が乱れる。その場合は、インターレースにする（29ページ）。
→ プログレッシブ（525p）方式に対応しているテレビでも、設定画面の「画面設定」の「コンポーネント出力」で「プログレッシブ」を選ぶと画像が乱れる場合がある。「コンポーネント出力」を「インターレース」にする（95ページ）。
→「画面設定」で「プログレッシブ」が選択されているときは、MONITOR OUTのVIDEO端子、S VIDEO端子からは出力されない。

映像が乱れる。
→ ディスクに汚れや傷がある。
→ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続する（27ページ）。

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」で設定した画像の形で再生できない。
→ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

次のページへつづく

音声

音が出ない。

➔ オーディオ接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
➔「MUTING ON」と表示されている場合は、リモコンの消音ボタンを押す。
➔ 一時停止、スロー再生になっている。
➔ 早送り、早戻しになっている。
➔ スピーカー設定が正しく行われていない（39、97ページ）。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している。

➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ バランス調整メニューにあるバランスパラメーターを調節する（99ページ）。
➔ アンプメニューの「SL SR REV」設定が正しくされているかどうか確認する。

サブウーファーから音が出ない

➔ スピーカーの接続と設定を確認する（17、39、97ページ）。
➔ オートデコーディングをオンにする（65ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。

➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。
➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。
➔ ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCD、CD、MP3を再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

➔ コントロールメニュー画面で「音声」を「ステレオ」にする（63ページ）。
➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。

ドルビーデジタル、DTS、MPEGの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果が得られない。

➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（65ページ）。
➔ スピーカーの接続と設定を確認する（17、39、97ページ）。
➔ ドルビーデジタルのディスクであっても5.1chすべてから出力されないもの（モノラルやL、Rステレオなど）もある。

センタースピーカーからしか音が出ない。

➔ ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない。

➔ スピーカーの接続と設定を確認する（17、39、97ページ）。
➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（65ページ）。
➔ ディスクによってはセンタースピーカーから音が出ないものもある。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。

➔ スピーカーの接続と設定を確認する（17、39、97ページ）。
➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（65ページ）。
➔ BSデジタル放送のMPEG-2 AACについては設定を確認する（96ページ）。
➔「C.ST.EX」がついているサウンドフィールドを選ぶ（65ページ）。
➔ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンド側の音が小さく記録されているものがある。
➔ ワイヤレス設定を確認する（32ページ）。
➔ プラズマテレビをお使いの場合は、発光ユニット、サラウンドアンプ（または受光ユニット）を、テレビから離す。または、発光部と受光部が一直線上になるように再度位置を調整しなおす。
➔ サラウンドスピーカー（L）（または受光ユニット）は直射日光や照明などの強い光の当たる場所には置かない。
➔ サラウンドスピーカー（L）（または受光ユニット）の受光部分の汚れをとる。

操作

放送局が受信できない。

➔ アンテナが正しく接続されているか確認する。
アンテナの向きなどを調節する。
屋外アンテナを使用する。

→ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。
→ プリセットチューニングしている場合、何も登録されていない、または登録した放送局を消してしまった。
その場合は登録する（86ページ）。
→ リモコンの本体表示ボタンを押して、周波数が表示されるようにする。

リモコンで操作できない。
→ リモコンと本体との間に障害物がある。
→ リモコンと本体との距離が離れている。
→ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
→ リモコンの電池が消耗している。

POWER/ON LINEランプが一瞬赤く点灯する。
→ MP3やDVDディスクを再生するとき、またはディスクを交換するときは、ランプが一瞬赤く点灯します。故障ではありません。

POWER/ON LINEランプが赤く点滅する。
→ 他のワイヤレスシステムと離す。
→ 発光ユニットをサラウンドスピーカー（L）の受光部（または受光ユニット）に向ける。

再生が始まらない。
→ ディスクが入っていない。
→ ディスクが裏返しに入っている。
再生面を下にする。
→ ディスクが斜めにずれて入っている。
→ CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている（11ページ）。
→ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている（10ページ）。
→ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める（3ページ）。

MP3が再生できない。
→ ISO9660 レベル1、レベル2、Joliet に準拠していないMP3 音声が記録されいる。
→ 拡張子が「.MP3」になっていない。
→ 拡張子は「.MP3」だが、MP3以外のデータ形式になっている。
→ MP3PROで記録された音声は再生できない。
→ ディスクを取り出し、設定画面から「視聴設定」の「データCD優先モード」を「MP3」に設定する。
→ ディレクトリレベルが8階層を超えている。
→ ディスクのアルバム数が99を超えている。（MP3のアルバムに記録されるトラック数の最大数は250です。）

MP3のアルバム／トラック名が正しく表示されない。
→ 本機で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は正しく表示されない。

JPEGが再生できない。
→ ISO9660レベル1、レベル2、Jolietに準拠していないJPEG画像が記録されている。
→ 拡張子が「.JPG」または「.JPEG」になっていない。
→ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG以外のデータ形式になっている。
→ 縦が1ドット以上のJPEG画像は表示できない。
→ 縦または横が4720ドット以上のJPEG画像は表示できない。
→ ディスクを取り出し、設定画面から「視聴設定」の「データCD優先モード」を「JPEG」に設定する。
→ ディレクトリレベルが8を超えている。
→ プログレッシブJPEGファイルは再生できない。
→ ディスクのアルバム数が99を超えている。（JPEGのアルバムに記録されるファイル数の最大数は250です。）
→ ファイル形式によっては一部再生できないファイルがございます。

JPEGのアルバム／ファイル名が正しく表示されない。
→ 本機で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は正しく表示されない。

スーパーオーディオCDでカスタム視聴設定をしたのに暗証番号入力画面が出ない。
→ カスタム視聴設定をしたときのレイヤーと異なるレイヤーになっている。

再生がディスクの最初から始まらない。
→ プログラムまたはシャッフル、リピート再生になっている（50、52、53ページ）。

次のページへつづく

→ リジューム再生になっている。
停止中に、本体またはリモコンの ■（停止）ボタンを押してから再生を始める（42ページ）。
→ 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。
→ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

再生が自動的に止まる。
→ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

DVD使用時に自動的に電源がきれた。
→ DVDの一時停止状態、またはDVD再生中にDVDトップメニューまたはDVDメニューを表示した状態で約1時間経過すると、自動的に電源が切れる。

ストップ、スキャン、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。
→ 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて確認する。

希望する言語で画面表示されない。
→ 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ（93ページ）。

音声言語を変更できない。
→ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
→ 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。
→ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
→ 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。
→ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。
→ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。表示窓のアングル表示が点灯しているときのみ、アングルを切り換えることができる。
→ アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

ディスクを取り出すことができず、表示窓に「LOCKED」と表示される。
→ お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

本体の表示窓に「C-32」と表示される。
→ 本体の**I/**⏻（電源）スイッチを押して電源を切り、再び電源を入れる。

本体の表示窓に「CANNOT LOCK」と表示される。
→ 本体の**I/**⏻（電源）スイッチを押して電源を切り、再び電源を入れてから「輸送時のご注意」（3ページ）の操作を行う。それでもまた「CANNOT LOCK」が表示されるようなら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

正常に動作しない。
→ 正常に動作しなくなったときは、電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、再び電源を入れる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、DVDホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DAV-SR4W
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力
ステレオモード：
86W＋ 86W（4Ω、JEITA*）
サラウンドモード：
フロント部：86W＋ 86W（SS-TS21）
センター部**：86W（SS-CT33）
サラウンド部**：86W＋ 86W（SA-TS22W、SS-TS21）（4Ω、JEITA*）
サブウーファー部**：170W（SS-WS12）（4Ω、JEITA*）

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。
**サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子　VIDEO(ANALOG)
AUDIO IN L/R：ピンジャック、250mV、50kΩ
SAT (ANALOG) AUDIO IN L/R：ピンジャック、450mV、50kΩ
(DIGITAL) OPTICAL DIGITAL IN：光入力コネクター

出力端子　SURROUND BACK：ピンジャック、最大出力レベル：2V、負荷インピーダンス：1kΩ
PHONES：ステレオミニジャック、低および高インピーダンスヘッドフォン対応
DIGITAL OUT OPTICAL (CDのみ)：光出力コネクター

システム

形式　Super Audio CD/DVDプレーヤー
信号方式　JEITA標準、NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性　DVD（PCM）：2Hz～22kHz（±1.0dB）＊
（2CH STEREOモード時）
CD：2Hz～20kHz（±1.0dB）＊
全高調波ひずみ率
0.03 %以下*
ワウ・フラッター
測定限界（±0.001% W PEAK）以下*

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
受信周波数　FM：76.0～90.0MHz
AM：531～1,602kHz
アンテナ　FM：ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
AM：ループアンテナ
中間周波数　FM：10.7MHz

ビデオ部

出力　MONITOR OUT
VIDEO　映像：1Vp-p, 75Ω
S VIDEO　S 映像：Y: 1Vp-p, 75Ω（DVDのみ）
C: 0.286Vp-p, 75Ω（DVDのみ）
COMPONENT OUT
D2 VIDEO　D2映像：Y: 1Vp-p, 75Ω（DVDのみ）

スピーカー

フロント/サラウンド（R）

方式　2ウェイバスレフ型
形状　コーン型 70mm、バランスドーム型 25mm
定格インピーダンス
4Ω
最大外形寸法　255×1112×255mm（幅/高さ/奥行き、最大寸法）
質量　約4.1kg

センター

方式　2ウェイバスレフ型
形状　コーン型 70mm、バランスドーム型 25mm
定格インピーダンス
4Ω
最大外形寸法　356×92×76mm（幅/高さ/奥行き）
質量　約0.95kg

サラウンド（L）

方式　2ウェイバスレフ型
形状　コーン型 70mm、バランスドーム型 25mm
定格インピーダンス
4Ω
最大外形寸法　255×1112×255（幅/高さ/奥行き、最大寸法）
質量　約5.0kg

サブウーファー

方式　バスレフ型
形状　コーン型、160mm×2
定格インピーダンス
　4Ω
最大外形寸法　201×368×448mm（幅/高さ/奥行き）
質量　約9.5kg

本体

電源　AC 100V、50/60Hz
消費電力　75W
最大外形寸法　430×60×385mm（幅/高さ/奥行き）
質量　約4.7kg

サラウンドスピーカー（L）

電源　AC 100V、50/60Hz
消費電力　20W

付属品

16ページをご覧ください。

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用
- 袋に、焼却時、環境に有害な物質の発生を抑制する効果のある特殊酸化鉄を配合
- システムの本体キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装に非塩ビ系素材を使用

用語解説

アルバム

MP3音声やJPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。

インターレース（飛び越し走査）

通常のテレビ放送のNTSC 方式では、1 秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現している。1枚画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。従来のテレビの表示方式。

インデックス（スーパーオーディオCD/CD）/ビデオインデックス（ビデオCD）

再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたもの。インデックスが記録されていないディスクもある。

視聴年齢制限

国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

シーン

PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

スーパーオーディオCD

スーパーオーディオCDとは、現行のCDなどに用いられているPCM方式とは異なるDSD（ダイレクトストリームデジタル）方式で記録された、新しい高音質オーディオディスクの規格です。DSD方式は、CDの64倍にあたるサンプリング周波数で、1ビットの量子化の採用により、現行のCDをはるかに超える広い再生帯域と可聴帯域における十分なダイナミックレンジを確保し、原音をより忠実に再現します。

次のページへつづく

スーパーオーディオCDには、以下のような種類があります。

- スーパーオーディオCD（シングルレイヤーディスク）
  HD（ハイデンシティ）レイヤー（スーパーオーディオCD用の高密度信号層）単層のみのディスクです。
- スーパーオーディオCD（デュアルレイヤーディスク）
  長時間再生を可能にした、HDレイヤーが2層になっているディスクです。2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。
- スーパーオーディオCD+CD（ハイブリッドディスク）
  HDレイヤーとCDレイヤーとが2層になったディスクです。2層構成ですが片面読み出しのため、ディスクを裏返す必要はありません。また、CDレイヤーの内容は通常のCDプレーヤーでも再生できます。
- 2チャンネル＋マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスク
  スーパーオーディオCDのHDレイヤーに2チャンネルのエリアとマルチチャンネルのエリアの両方が記録されているディスクです。

タイトル

DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）

著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL 表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チャプター

DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

デジタルシネマサウンド（DCS）

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しむために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発された。

デジタル赤外線伝送
（Digital Infrared Audio Transmission）

昨今、DVDやBSデジタル放送等の高品質なメディアが急激に普及しつつあります。このような高品質なメディアによってもたらされた微妙なニュアンスを劣化することなく伝送するため、DAV-SR4Wではデジタルオーディオ信号を非圧縮で赤外線伝送する技術、「Digital Infrared Audio Transmission」を開発、導入しました。
この技術はIEC（国際電気標準会議）およびJEITA（電子情報技術産業協会）でHi-Fiオーディオ伝送用として割り当てられている副搬送波周波数帯域内で、デジタルオーディオ信号を非圧縮で伝送することが可能です。
（図1）

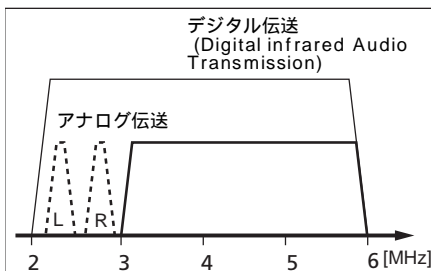



図1デジタル赤外線伝送の信号スペクトラム

トラック

ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。

ドルビーサラウンド（プロロジック）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、サラウンドに信号を出力する。サラウンドチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII
ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。
本機は以下の2つのモードを持つ。

ムービーモード
ムービーモードはステレオTVショーやドルビーサラウンドでエンコードされたすべてのプログラムに向いている。その効果はディスクリート5.1チャンネルサウンドの質に迫る音場指向性の改善である。

ミュージックモード
ミュージックモードはあらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深く音場を確保する。
ミュージックモードはサウンドをリスナーの希望どおりに操作できる制御を持っている。

ビデオCD
動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」（エムペグ1）を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。

ビデオ素材、フィルム素材
DVD の映像素材の種類。ビデオ素材はテレビドラマやテレビアニメーションなどのテレビ放送された番組（1秒30フレーム、60フィールド）をDVD に記録したもの。フィルム素材とは映画フィルム（1秒24コマ）をDVD に記録したもの。

ファイル
JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。

プレイバックコントロール（PBC）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

次のページへつづく

プログレッシブ（順次走査）

通常のテレビ放送のNTSC方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現している。これがインターレース（飛び越し走査）方式。1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。これに対してプログレッシブ方式の場合は、走査線を飛び越すことなく、NTSCで言えば525本の走査線を使って、1秒間に60枚の画像を映し出す。細かな文字や横線などの多い場面などで高画質な映像を再現できる。本機は525プログレッシブ（525p）方式に対応。

マルチアングル

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

D2映像信号

D端子付きデジタルテレビなどと1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できる。コンポーネント信号で接続するため、より高画質な画像となる。D端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3とD4端子がある。本機にはD2出力端子（525i(480i)、525p(480p)の信号に対応*）が付いており、D1、D2、D3およびD4端子付きデジタルテレビなどに対応している 。

* iはインターレースの略。pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称。

DTS

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

DVD

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。

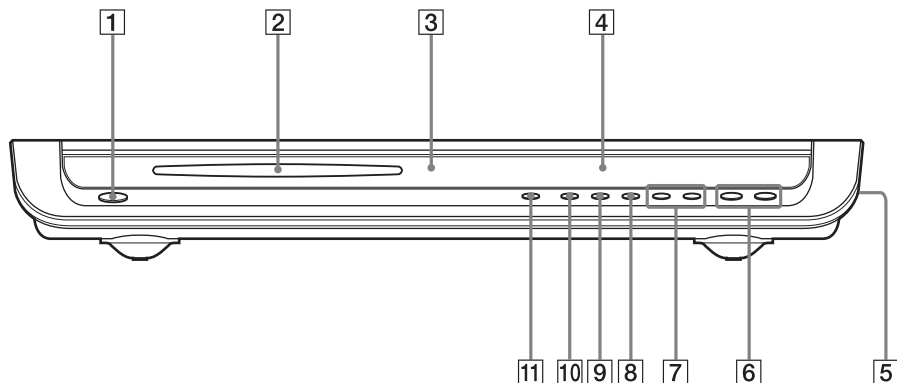
片面1層で4.7GB（Gigaギガ Byteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。

画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタル、DTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。

またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面

1 I/⏻（電源）スイッチ/STANDBY（スタンバイ）ランプ（40）

2 ディスクスロット（40）

3 Ⓡ（リモコン受光部）（16）

4 表示窓（116）

5 PHONES（ホーンズ）（ヘッドホン）端子（本体の横面）（40）

6 VOLUME（ボリューム）（音量）＋/－ボタン（40、99）

7 I◀◀（前）／▶▶I（次）ボタン（41、44）

8 ■（停止）ボタン（41）

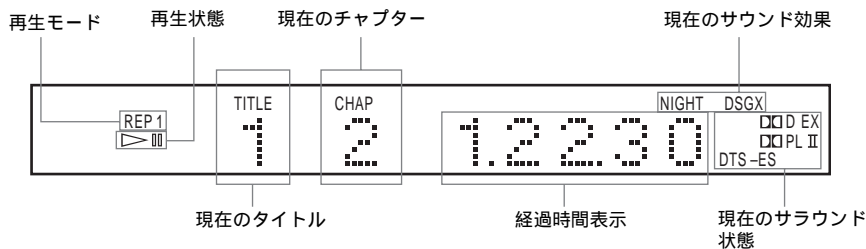
9 ▷II（再生/一時停止）ボタン（40）

10 FUNCTION（ファンクション）（ファンクション）ボタン（40、84、87）

11 ⏏（イジェクト）ボタン（40）

その他

本体の表示窓

DVD再生中

スーパーオーディオCD/CD/ビデオCD（PBC再生中はのぞく）/MP3再生中

ラジオを聞くとき

JPEGファイル再生中

その他

本体後面

1 **SPEAKER**（スピーカー）
スピーカー出力端子（17）

2 **SURROUND BACK**（サラウンド バック）
サラウンドバック出力端子（21）

3 **VIDEO**（ビデオ）
音声L/Rアナログ入力端子（27）

4 **DIGITAL OUT (OPTICAL)**（デジタル アウト オプティカル）
音声デジタル出力（光）端子（27）

5 **VIDEO OPTICAL DIGITAL IN**（ビデオ オプティカル デジタル イン）
音声デジタル入力（光）端子（27）

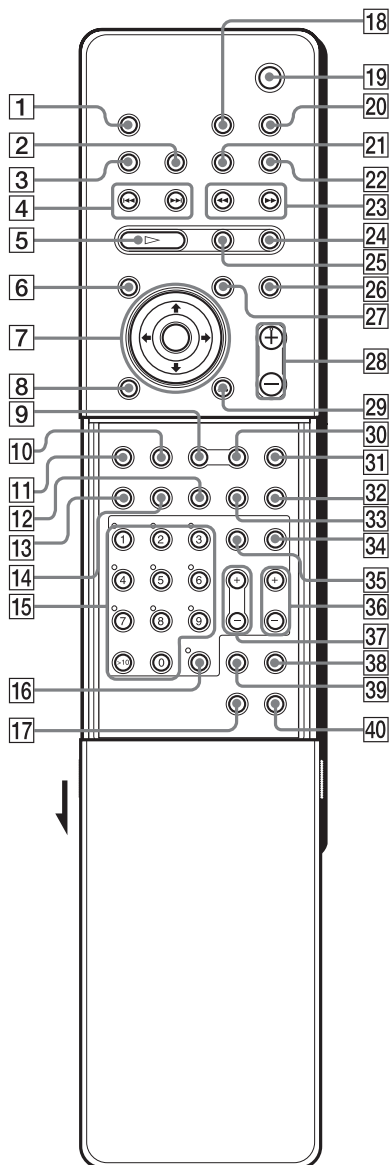
6 **AMアンテナ端子（25）**

7 **FM 75Ω COAXIALアンテナ端子（25）**（コアキシャル）

8 **MONITOR OUT （VIDEO/S VIDEO）**（モニター アウト ビデオ ビデオ）
映像出力端子/S映像出力端子（27）

9 **COMPONENT OUT D2 VIDEO**（コンポーネント アウト ビデオ）
D2ビデオ出力端子（27）

10 **SAT**
音声L/Rアナログ入力端子（27）

11 **DIR-T1端子（19）**

リモコン

ご注意

リモコンを暗所で光らせるには、光のあたる場所にしばらくのあいだ置いてください。

1 ≜（イジェクト）ボタン（41）

2 本体表示ボタン（58、61、87）

3 スリープボタン（89）

4 ⏮/⏭ プリセット－/+ボタン（44、87）

5 ▷ （再生）ボタン（40、41、44、50、52、53、55）

6 DVDトップメニュー /アルバム－ボタン（43、45、48）

7 ←/↑/↓/→/決定ボタン（43、44、45、48、50、52、53、56、63、73、74、75、88、90、92）

8 DVD画面表示ボタン（45、48、52、53、56、61、63、73、74）

9 AFD ボタン（65、66）

10 DSGXボタン（71）

11 DVD設定ボタン（77、92）

12 字幕ボタン（74）

13 音声ボタン（63）

14 アングルボタン（73）

15 数字ボタン（43、44、50、56、73、75、77、81）

16 決定ボタン

17 チューナーメニューボタン（86、88）

18 テレビ電源スイッチ（81）

19 電源スイッチ（37、40、87）

20 ソニーテレビダイレクトボタン（83）

21 チューナー /バンドボタン（86、87）

22 ファンクションボタン（40、84、87、88）

23 ◀◀/▶▶/スロー ◀I/I▶/選局 －/+ボタン（55、86、87）

24 ■ （停止）ボタン（41、44、75、87）

25 ❚❚ （一時停止）ボタン（41）

26 消音ボタン（41）

27 DVDメニュー /アルバム+ボタン（43、45、48）

28 音量+/－ボタン（87）

29 ⤺ リターンボタン（44、45、48、50、75、77）

30 モード ボタン（66、67）

その他

次のページへつづく

㉛ **ナイトモードボタン（71）**

㉜ **再生モードボタン（50、52）**

㉝ **くり返しボタン（50、53）**

㉞ **テレビボタン（81、83）**

㉟ **テレビ/ビデオボタン（81、83）**

㊱ **テレビチャンネル+/－ボタン（81、83）**

㊲ **テレビ音量+/－ボタン（81）**

㊳ **アンプメニューボタン（31、85、90、101）**

㊴ **クリアーボタン（37、50、56）**

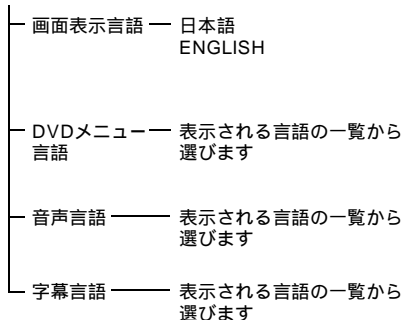
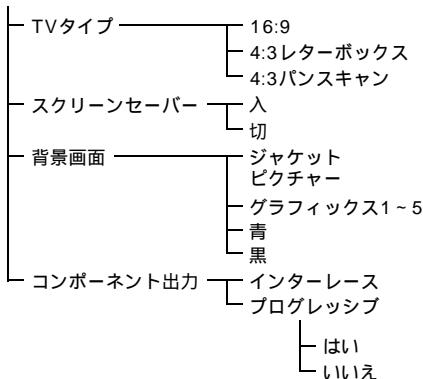
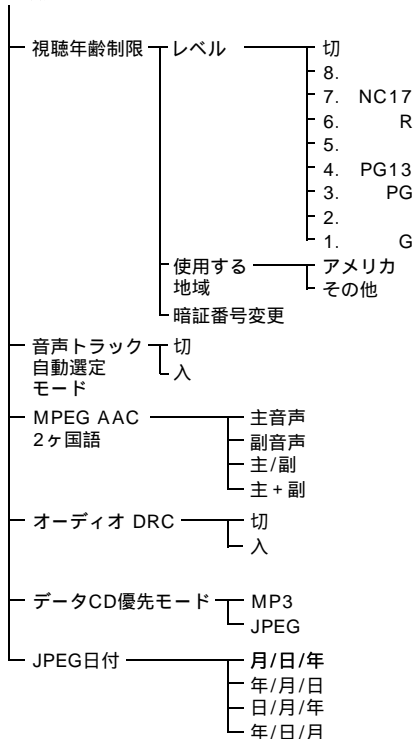
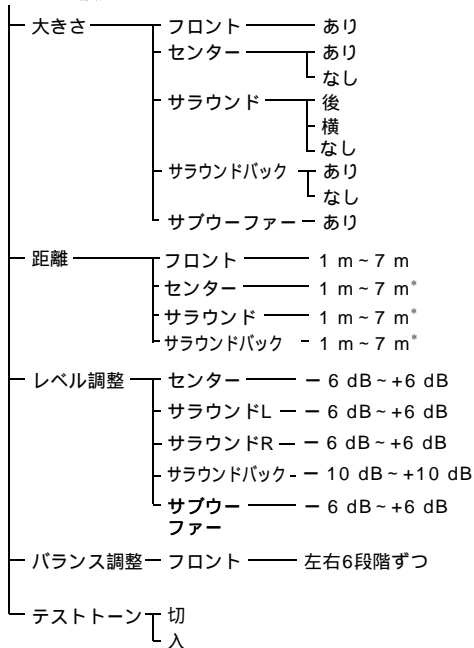
㊵ **FMモードボタン（87）**

言語コード一覧表

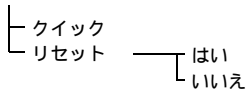
言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

Code	Language	Code	Language	Code	Language
1027	Afar	1245	Inupiak	1489	Russian
1028	Abkhazian	1248	Indonesian	1491	Kinyarwanda
1032	Afrikaans	1253	Icelandic	1495	Sanskrit
1039	Amharic	1254	Italian	1498	Sindhi
1044	Arabic	1257	Hebrew	1501	Sangho
1045	Assamese	1261	Japanese	1502	Serbo-Croatian
1051	Aymara	1269	Yiddish	1503	Singhalese
1052	Azerbaijani	1283	Javanese	1505	Slovak
1053	Bashkir	1287	Georgian	1506	Slovenian
1057	Byelorussian	1297	Kazakh	1507	Samoan
1059	Bulgarian	1298	Greenlandic	1508	Shona
1060	Bihari	1299	Cambodian	1509	Somali
1061	Bislama	1300	Kannada	1511	Albanian
1066	Bengali; Bangla	1301	Korean	1512	Serbian
1067	Tibetan	1305	Kashmiri	1513	Siswati
1070	Breton	1307	Kurdish	1514	Sesotho
1079	Catalan	1311	Kirghiz	1515	Sundanese
1093	Corsican	1313	Latin	1516	Swedish
1097	Czech	1326	Lingala	1517	Swahili
1103	Welsh	1327	Laothian	1521	Tamil
1105	Danish	1332	Lithuanian	1525	Telugu
1109	German	1334	Latvian; Lettish	1527	Tajik
1130	Bhutani	1345	Malagasy	1528	Thai
1142	Greek	1347	Maori	1529	Tigrinya
1144	English	1349	Macedonian	1531	Turkmen
1145	Esperanto	1350	Malayalam	1532	Tagalog
1149	Spanish	1352	Mongolian	1534	Setswana
1150	Estonian	1353	Moldavian	1535	Tonga
1151	Basque	1356	Marathi	1538	Turkish
1157	Persian	1357	Malay	1539	Tsonga
1165	Finnish	1358	Maltese	1540	Tatar
1166	Fiji	1363	Burmese	1543	Twi
1171	Faroese	1365	Nauru	1557	Ukrainian
1174	French	1369	Nepali	1564	Urdu
1181	Frisian	1376	Dutch	1572	Uzbek
1183	Irish	1379	Norwegian	1581	Vietnamese
1186	Scots Gaelic	1393	Occitan	1587	Volapük
1194	Galician	1403	(Afan) Oromo	1613	Wolof
1196	Guarani	1408	Oriya	1632	Xhosa
1203	Gujarati	1417	Punjabi	1665	Yoruba
1209	Hausa	1428	Polish	1684	Chinese
1217	Hindi	1435	Pashto; Pushto	1697	Zulu
1226	Croatian	1436	Portuguese	1703	
1229	Hungarian	1463	Quechua		
1233	Armenian	1481	Rhaeto-Romance		
1235	Interlingua	1482	Kirundi		
1239	Interlingue	1483	Romanian		

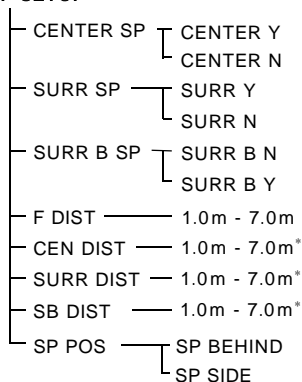
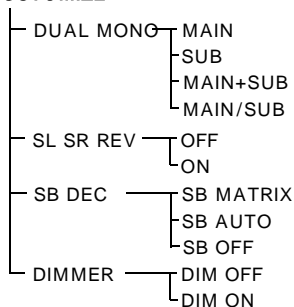
設定画面項目一覧表

設定画面で以下の項目を設定することができます。詳しくは「設定と調整をする」（92ページ）をご覧ください。

スピーカー設定

＊ フロントスピーカーの設定によって、設定範囲は変わります（97ページ）。

設定

その他

アンプメニュー項目一覧表

リモコンで以下のアンプメニュー項目を設定することができます。

SP SETUP

* フロントスピーカーの設定によって、設定範囲は変わります（101ページ）。

CUSTOMIZE

LEVEL

- TESTTONE
  - T.TONE OFF
  - T.TONE ON
- F BALANCE — 左右6段階ずつ
- CEN LEVEL — -6 dB - +6 dB
- SL LEVEL — -6 dB - +6 dB
- SR LEVEL — -6 dB - +6 dB
- SB LEVEL — -10 dB - +10 dB
- SW LEVEL — -6 dB - +6 dB
- AUDIO DRC
  - DRC OFF
  - DRC ON

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

リモコンの使いかた

ご注意
本機のリモコンは、他のソニー製品と共通の信号を採用しています。そのためボタンによっては、他のソニー製品が反応することがあります。

1 ⏏（イジェクト）
ディスクを取り出す。
2 本体表示
表示窓の表示を切り換える。
3 スリープ
設定した時間に本機の電源を切る。
4 ⏮/⏭/プリセットー/＋/
⏮/⏭：前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進める。
プリセットー/＋：登録した放送局を選ぶ。
5 ▷（再生）
再生する。
6 DVDトップメニュー/アルバムー
タイトルメニューを出す。
MP3/JPEG：アルバムを選ぶ。
7 ←/↑/↓/→/ 決定
画面に表示されている項目を選ぶ。
8 DVD画面表示
コントロールメニュー画面を表示させる。
9 AFD
サウンドフィールドを選ぶ。
10 DSGX
低域の音量を増幅させる。
11 DVD設定
DVD設定画面の項目を設定/調整する。
12 字幕
DVDの字幕を切り換える。
13 音声
DVDやビデオCDの音声を切り換える。
14 アングル
DVDのアングルを切り換える。
15 数字ボタン*
項目や設定を選ぶ。
テレビ モード: テレビ・チャンネルの番号順に切り換わります。
16 決定
選んだ項目を決定する。
17 チューナーメニュー
放送局の登録をしたり、放送局に名前を付ける。
18 テレビ電源スイッチ
テレビの電源を入/切する。
19 電源スイッチ
本機の電源を入/切する。
20 ソニーテレビダイレクト
テレビと本機の電源を入れ、テレビの入力を本機の設定にする。
21 チューナー/バンド
FMまたはAM放送を選ぶ。
22 ファンクション
使いたい機器を選ぶ。
23 ◀◀/▶▶/◀▮/▮▶ スロー/選局ー/＋
◀◀/▶▶ スキャン：画像を見ながら場面や曲を探す。
◀▮/▮▶ スロー：スロー再生をする。
選局ー/＋：放送局を選ぶ。
24 ■（停止）
再生を止める。
25 ▮▮（一時停止）
再生を一時停止する。
26 消音
音を消す。
27 DVDメニュー/アルバム＋
DVDメニューを出す。
MP3/JPEG：アルバムを選ぶ。
28 音量＋/ー
音量を調節する。
29 ↶ リターン
ひとつ前の選択画面に戻す。
30 モード
サウンドフィールドを選ぶ。
31 ナイトモード
低音量での音量効果を高める。
32 再生モード
プログラム再生またはシャッフル再生を選ぶ。
33 くり返し
リピート項目設定画面をテレビの画面に表示させる。
34 テレビ
リモコンのモードを切り換える。
通常：ボタンが消灯
テレビモード：ボタンが点灯
35 テレビ/ビデオ
テレビの入力モードを変更する。
36 テレビチャンネル＋/ー
テレビのチャンネルを切り換える。
37 テレビ音量＋/ー
テレビの音量を調節する。
38 アンプメニュー
アンプメニュー設定項目を表示窓に表示させる。
39 クリアー
選んだ数字を取り消す。
40 FMモード
FMステレオ放送の受信状態が良くないときに押すと、音声はモノラルになるが、聞きやすくなる。

* テレビのメーカーによっては以下の操作が可能なものもあります。
2桁の数字を入力するときは、>10を押したあとに数字を入力します。
たとえば、25と入力したいときは>10、2、5と入力します。

ソニー株式会社	お問い合わせはお客様ご相談センターへ ●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35	●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311 ●Fax：0466-31-2595 受付時間：月〜金 9:00〜20:00、土・日・祝日 9:00〜17:00

Sony Corporation Printed in Korea http://www.sony.co.jp/